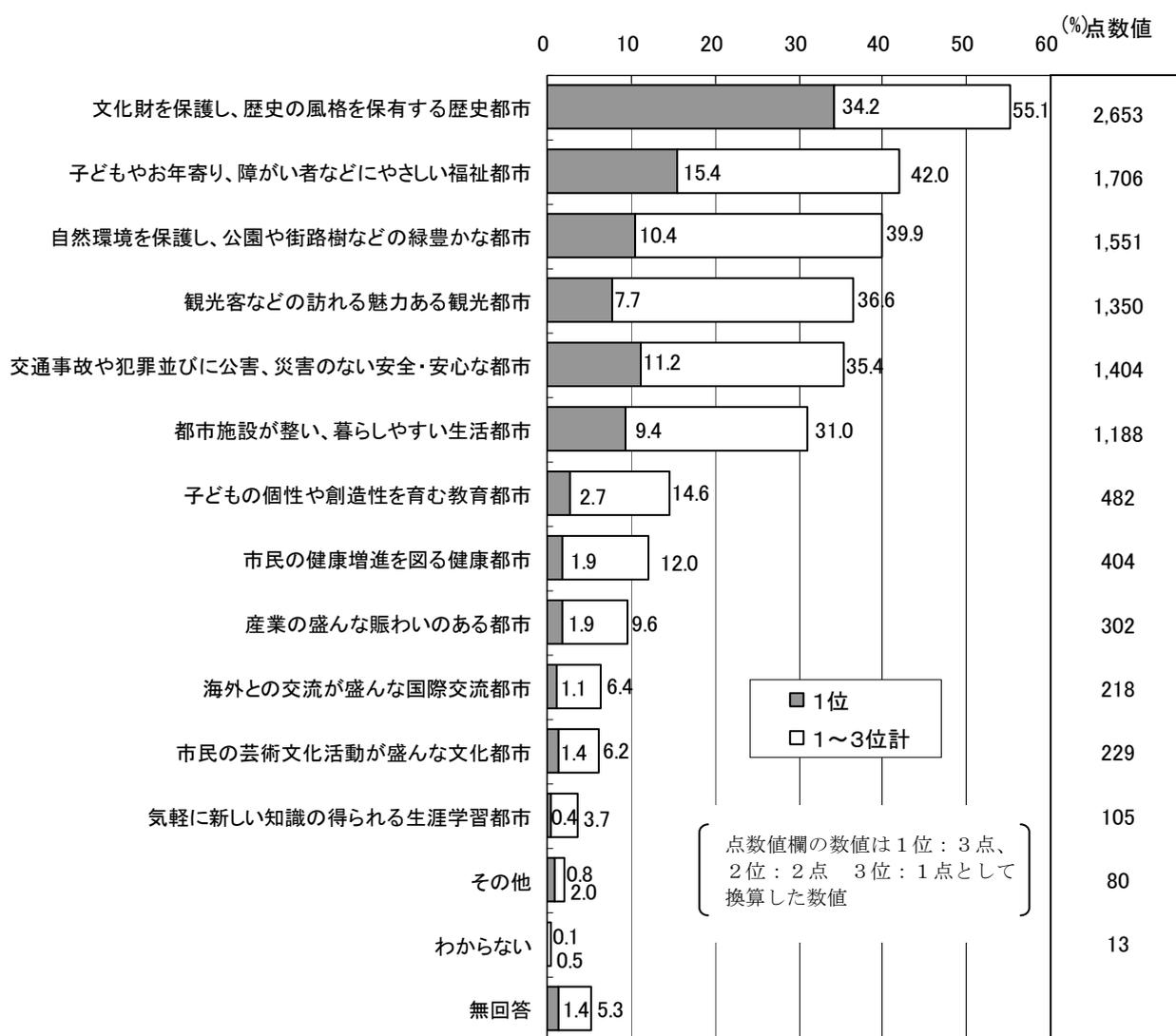


1. 奈良市の将来像について

1-1 将来の奈良市の望ましい姿

問1 あなたは、今後、長期を展望した上で、奈良市がどのような市になることが望ましいと思われるか。次の選択肢の中から、特に望まれるものの第1位から第3位までを選んで、その番号を下の回答欄に記入してください。

図 1-1 (将来の奈良市の望ましい姿) 【n=1,980】



今後、奈良市がどのような市になることが望ましいと思うか尋ねたところ、第1位～3位までを総合して最も割合が高かった項目は「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」で 55.1%と半数以上にのぼっており、次いで「子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 (42.0%)」、「自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 (39.9%)」、「観光客などの訪れる魅力ある観光都市 (36.6%)」、「交通事故や犯罪並びに

公害、災害のない安全・安心な都市」(35.4%)」の順となっている。1位を3点、2位を2点、3位を1点として数値換算した点数の順位をみても、選択された項目全てをまとめた順位とほぼ同様の結果になっている。

第1位に選択された項目でも最も割合が高かった項目は「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」で34.2%、次いで「子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市」が15.4%となっているが、続く項目では順位が入れ替わっており、「交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市(11.2%)」「自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市(10.4%)」の順となっている。(図1-1)

表1-1-1 (年齢別 将来の奈良市の望ましい姿 選択項目全て)【単位：%】

	20～29歳 (n=187)	30～39歳 (n=281)	40～49歳 (n=309)	50～59歳 (n=388)	60～69歳 (n=435)	70歳以上 (n=367)
1位	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 53.5	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 52.3	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 54.7	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 53.9	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 55.9	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 59.7
2位	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 40.6	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 42.4	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 39.5	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 47.7	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 43.7	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 42.0
3位	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 39.6	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 41.0	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 38.6	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 44.4	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 42.1	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 39.5
4位	都市施設が整い、暮らしやすい生活都市 33.7	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 37.0	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 37.5	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 38.7	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 34.9	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 33.8
5位	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 33.2	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 35.9	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 35.8	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 34.2	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 34.8	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 32.1

選択した項目全てを年齢別にみると、全ての年代で「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」が5割を超えて最も割合が高い。次に30～39歳と50歳以上の年代では、「子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市」が4割台で高くなっている。20～29歳では「観光客などの訪れる魅力ある観光都市」が40.6%、40～49歳では「交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市」が39.5%となっている。(表1-1-1)

表 1-1-2 (地域別 将来の奈良市の望ましい姿 選択項目全て)【単位：％】

	西部地域 (n=861)	北部地域 (n=145)	中部地域 (n=133)	中央市街地 (n=513)	南部地域 (n=136)	東部地域 (n=33)	月ヶ瀬地域 (n=8)	都祁地域 (n=30)
1位	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 58.2	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 60.0	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 52.6	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 52.8	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 47.8	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 66.7	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 62.5	文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 53.3
2位	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 44.8	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 42.8	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 41.4	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 43.4	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 44.9	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 48.5	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 37.5	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 50.0
3位	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 39.7	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 37.9	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 41.3	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 43.1	都市施設が整い、暮らしやすい生活都市 40.5	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 45.4	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 37.5	子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 46.7
4位	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 34.6	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 34.5	都市施設が整い、暮らしやすい生活都市 37.5	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 38.4	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 40.4	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 33.4	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 37.5	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 36.7
5位	観光客などの訪れる魅力ある観光都市 32.7	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 31.0	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 36.8	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 34.7	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 36.8	交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 33.3	都市施設が整い、暮らしやすい生活都市 37.5	自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 30.0

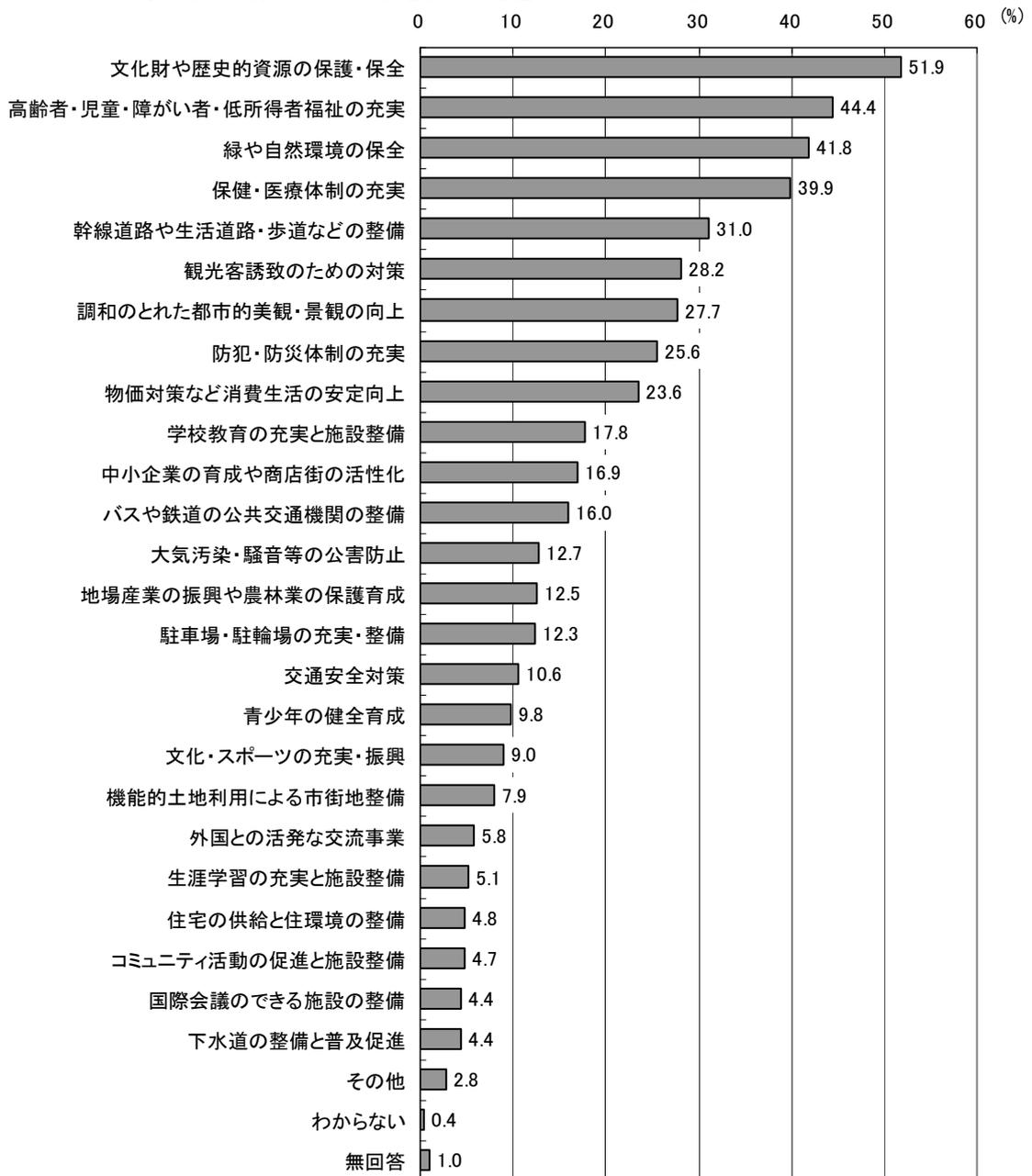
選択した項目全てを地域別にみると、西部地域・北部地域・中部地域・中央市街地・南部地域・東部地域・都祁地域では、「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」が最も高くなっている。

「交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市」は月ヶ瀬地域で 62.5%と最も高く、都祁地域においても 2位で 50.0%となっている。(表 1-1-2)

1-2 将来像の実現のために重点を置くべき施策

問2 それでは、あなたの考えられる奈良市の将来像の実現のために、行政施策として重点を置いて実施していくべきだとお考えになるのはどれでしょうか。
(あてはまるもの5つ以内に○)

図1-2 (将来像の実現のために重点を置くべき施策 5つ以内で複数回答)【n=1,980】



奈良市の将来像の実現のために、行政施策として重点を置いて実施していくべきだと思う項目では、「文化財や歴史的資源の保護・保全」が51.9%と最も高く、次いで「高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 (44.4%)」、「緑や自然環境の保全 (41.8%)」の順となっている。(図1-2)

表 1-2-1 (年齢別 将来像の実現のために重点を置くべき施策 5つ以内で複数回答)【単位：％】

	20～29歳 (n=187)	30～39歳 (n=281)	40～49歳 (n=309)	50～59歳 (n=388)	60～69歳 (n=435)	70歳以上 (n=367)
1位	文化財や歴史的資源の保護・保全 47.1	文化財や歴史的資源の保護・保全 52.3	文化財や歴史的資源の保護・保全 50.8	文化財や歴史的資源の保護・保全 50.8	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 52.9	文化財や歴史的資源の保護・保全 56.4
2位	緑や自然環境の保全 41.2	緑や自然環境の保全 44.5	保健・医療体制の充実 37.5	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 45.4	文化財や歴史的資源の保護・保全 52.2	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 51.5
3位	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 35.8	保健・医療体制の充実 38.8	緑や自然環境の保全 36.6	緑や自然環境の保全 44.6	緑や自然環境の保全 46.0	保健・医療体制の充実 43.6
4位	観光客誘致のための対策 35.3	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 37.7	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 34.3	保健・医療体制の充実 41.5	保健・医療体制の充実 40.5	緑や自然環境の保全 36.2
5位	保健・医療体制の充実 34.8	防犯・防災体制の充実 29.9	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 33.0	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 33.2	調和のとれた都市的美観・景観の向上 31.5	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 31.6

年齢別にみると、20～59歳・70歳以上では「文化財や歴史的資源の保護・保全」が最も高くなっており、特に70歳以上では56.4%と高い割合になっている。

「高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実」は、60～69歳では52.9%で最も高くなっており、50～59歳・70歳以上でも5割前後と高い。(表 1-2-1)

表 1-2-2 地域別 将来像の実現のために重点を置くべき施策 5つ以内で複数回答)【単位：％】

	西部地域 (n=861)	北部地域 (n=145)	中部地域 (n=133)	中央市街地 (n=513)	南部地域 (n=136)	東部地域 (n=33)	月ヶ瀬地域 (n=8)	都祁地域 (n=30)
1位	文化財や歴史的資源の保護・保全 55.4	文化財や歴史的資源の保護・保全 61.4	保健・医療体制の充実 48.1	文化財や歴史的資源の保護・保全 48.3	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 50.0	文化財や歴史的資源の保護・保全 57.6	保健・医療体制の充実 50.0	保健・医療体制の充実 46.7
2位	緑や自然環境の保全 47.0	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 44.1	文化財や歴史的資源の保護・保全 47.4	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 44.4	文化財や歴史的資源の保護・保全 42.6	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 54.5	文化財や歴史的資源の保護・保全 37.5	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 46.7
3位	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 43.6	緑や自然環境の保全 38.6	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 46.6	緑や自然環境の保全 41.3	保健・医療体制の充実 40.4	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 45.5	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 37.5	文化財や歴史的資源の保護・保全 43.3
4位	保健・医療体制の充実 41.3	保健・医療体制の充実 37.9	緑や自然環境の保全 36.1	保健・医療体制の充実 36.3	物価対策など消費生活の安定向上 33.1	保健・医療体制の充実 39.4	高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実 37.5	緑や自然環境の保全 36.7
5位	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 30.5	観光客誘致のための対策 29.7	物価対策など消費生活の安定向上 31.6	観光客誘致のための対策 33.1	幹線道路や生活道路・歩道などの整備 32.4	地場産業の振興や農林業の保護育成 39.4	観光客誘致のための対策 37.5	地場産業の振興や農林業の保護育成 36.7

地域別にみると、西部地域・北部地域・中央市街地・東部地域・は「文化財や歴史的資源の保護・保全」、南部地域は「高齢者・児童・障がい者・低所得者福祉の充実」の施策への要望が最も高い。また、中部地域・月ヶ瀬地域・都祁地域は「保健・医療体制の充実」が約5割で他の地域と比べて高くなっている。

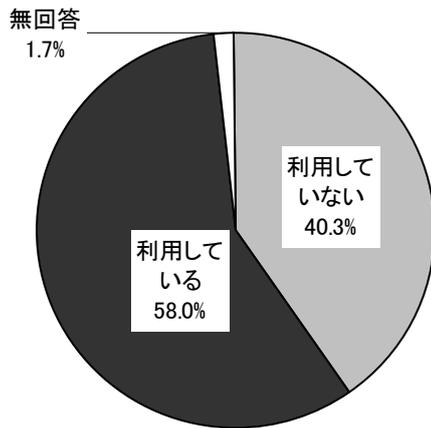
「幹線道路や生活道路・歩道などの整備」は、東部地域と月ヶ瀬地域で高く、特に東部地域では5割を超えている。(表 1-2-2)

2. 情報化について

2-1 インターネットの利用状況

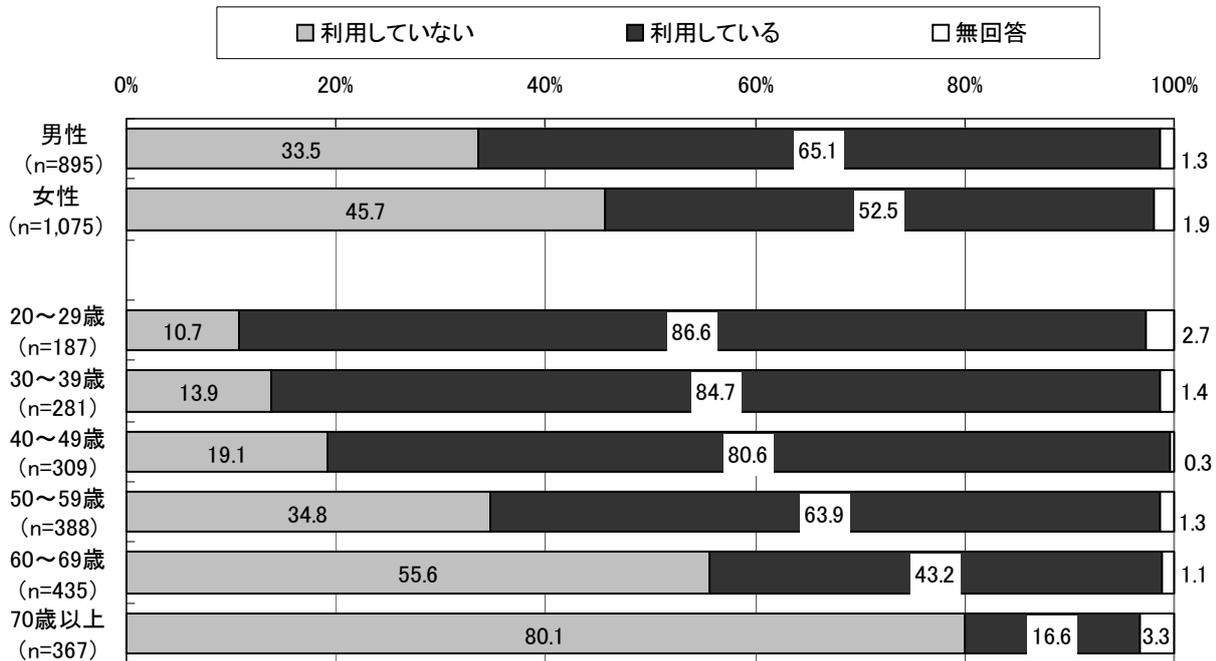
問3 あなたは、インターネットを利用していますか。(1つ選択)

図 2-1 (インターネットの利用状況)【n=1,980】



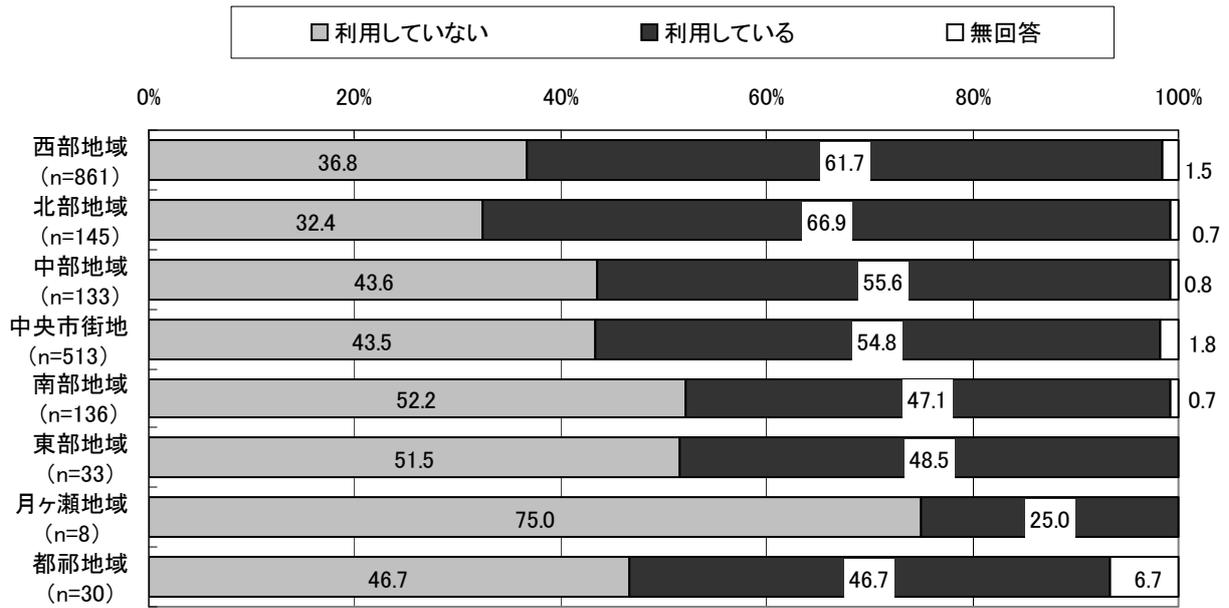
インターネットを「利用している」は58.0%で半数を超えており、「利用していない」は40.3%となっている。(図 2-1)

図 2-1-1 (性・年齢別 インターネットの利用状況)



性別にみると、「利用している」が男性は65.1%、女性は52.5%で男性の方がやや高い。
年齢別にみると、年齢が高くなるほど「利用していない」の割合が高くなっており、60~69歳では5割強、さらに70歳以上になると8割を占めている。(図 2-1-1)

図 2-1-2 (地域別 インターネットの利用状況)

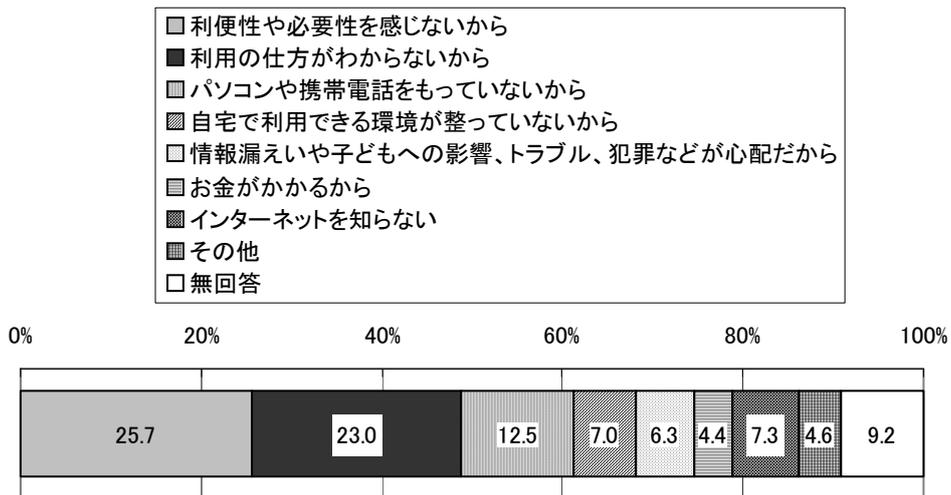


地域別にみると、西部地域と北部地域で「利用している」が6割を超えている。月ヶ瀬地域は「利用していない」が4人に3人の割合となっており、未利用者が多い。(図 2-1-2)

2-2 インターネットを利用しない理由

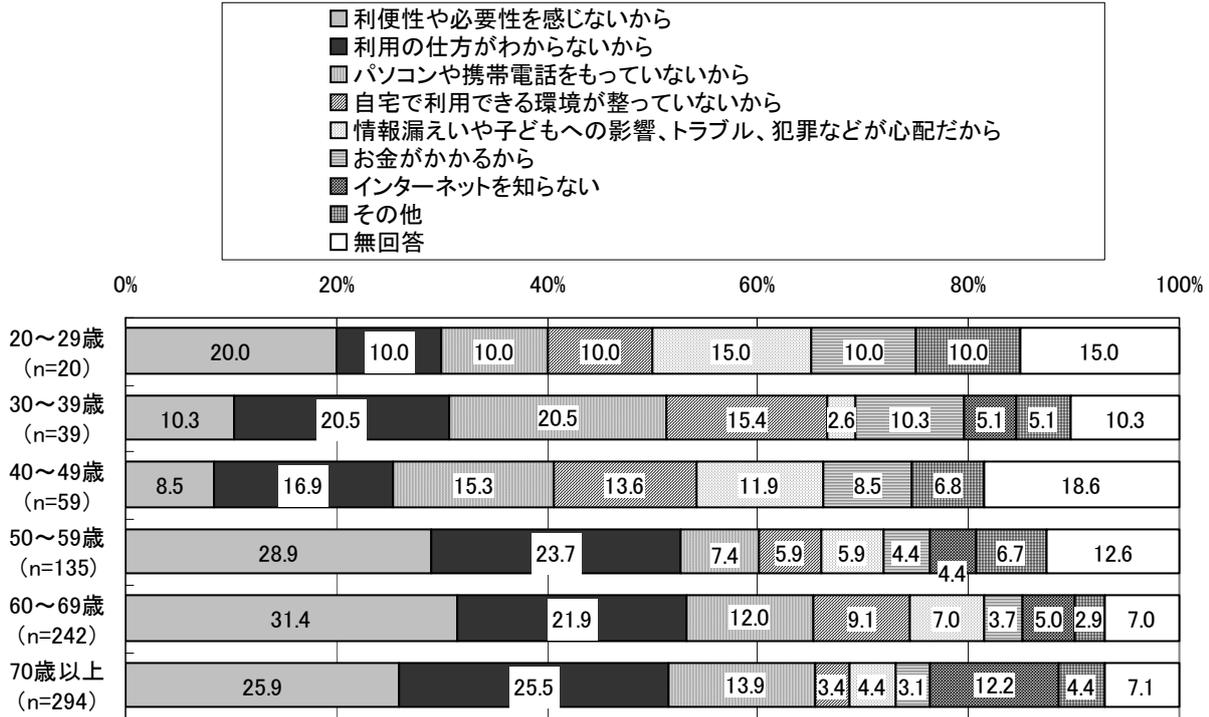
問 3-1 「1. 利用していない」と回答された方に伺います。インターネットを利用していない理由は何ですか。(1つ選択)

図 2-2 (インターネットを利用しない理由) 【n=797】



「インターネットを利用しない」に回答した人にその理由を尋ねたところ、「利便性や必要性を感じないから」が25.7%で最も高くなっている。次いで「利用の仕方がわからないから(23.0%)」、「パソコンや携帯電話をもっていないから(12.5%)」の順となっている。(図 2-2)

図 2-2-1 (年齢別 インターネットを利用しない理由) 【n=797】

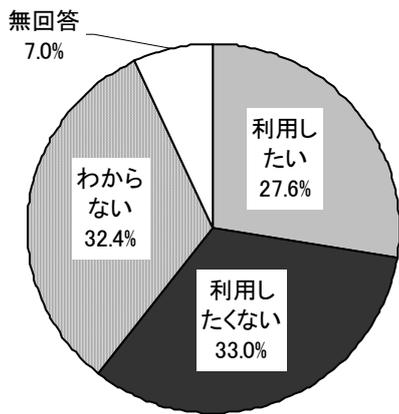


年齢別にみると、70歳以上では、「利便性や必要性を感じないから」と「利用の仕方がわからないから」がほぼ同率でそれぞれ4人に1人の割合となっている。「パソコンや携帯電話をもっていないから」が30～39歳で2割、60歳以上で1割を超えている。(図 2-2-1)

2-3 インターネットの利用意向

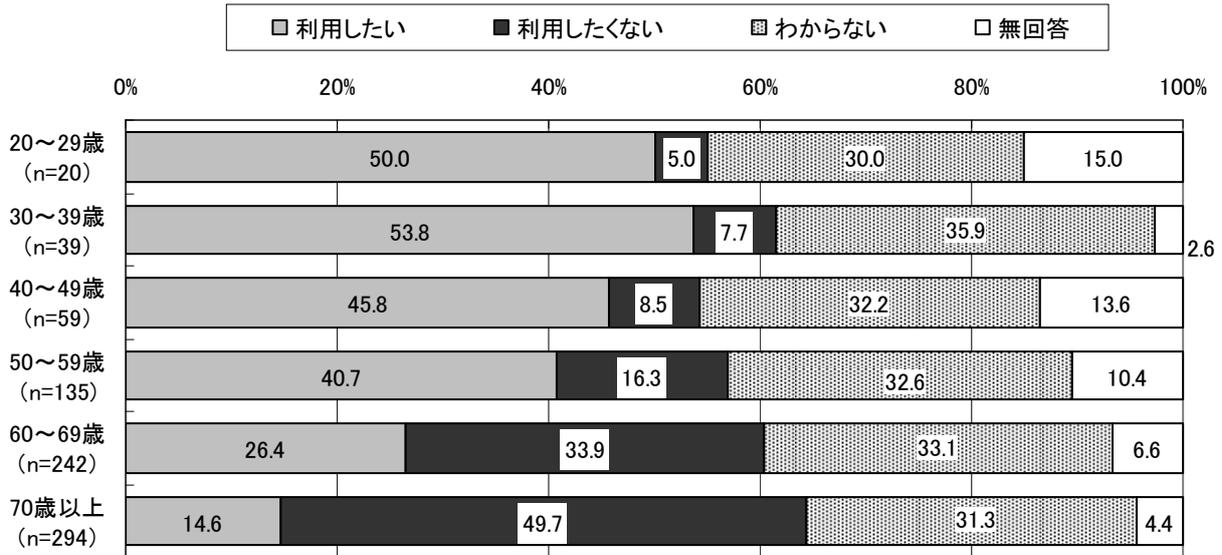
問 3-1-1 今後、インターネットを利用したいと思いますか。(1つ選択)

図 2-3 (インターネットの利用意向) 【n=797】



今後のインターネットの利用意向については、「利用したくない」が 33.0%で最も高く、次いで「わからない」が 32.4%、「利用したい」が 27.6%の順となっている。

図 2-3-1 (年齢別 インターネットの利用意向)

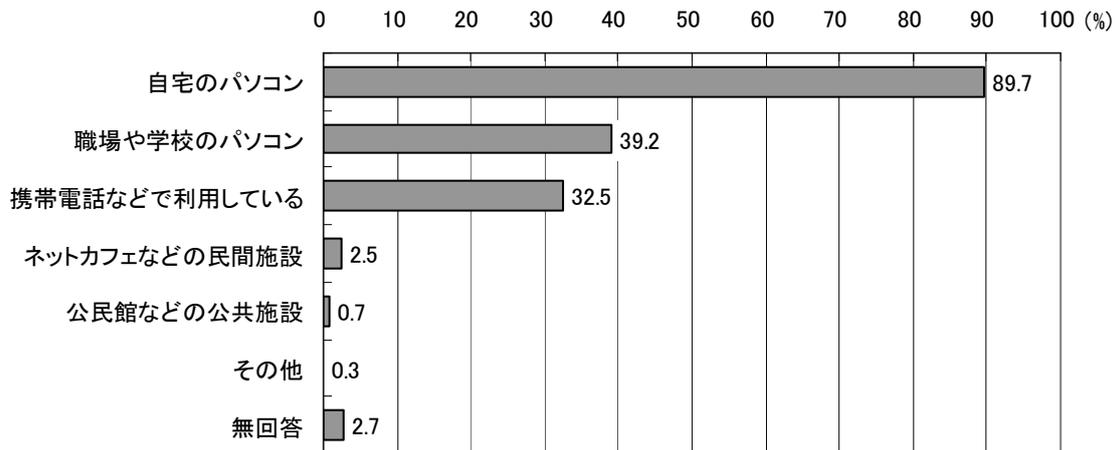


年齢別にみると、60歳未満では「利用したい」が4～5割、60歳以上では「利用したくない」が3割～5割となっており、年齢が高くなるにつれて利用意向が低くなっている。(図 2-3-1)

2-4 インターネットを利用する場所

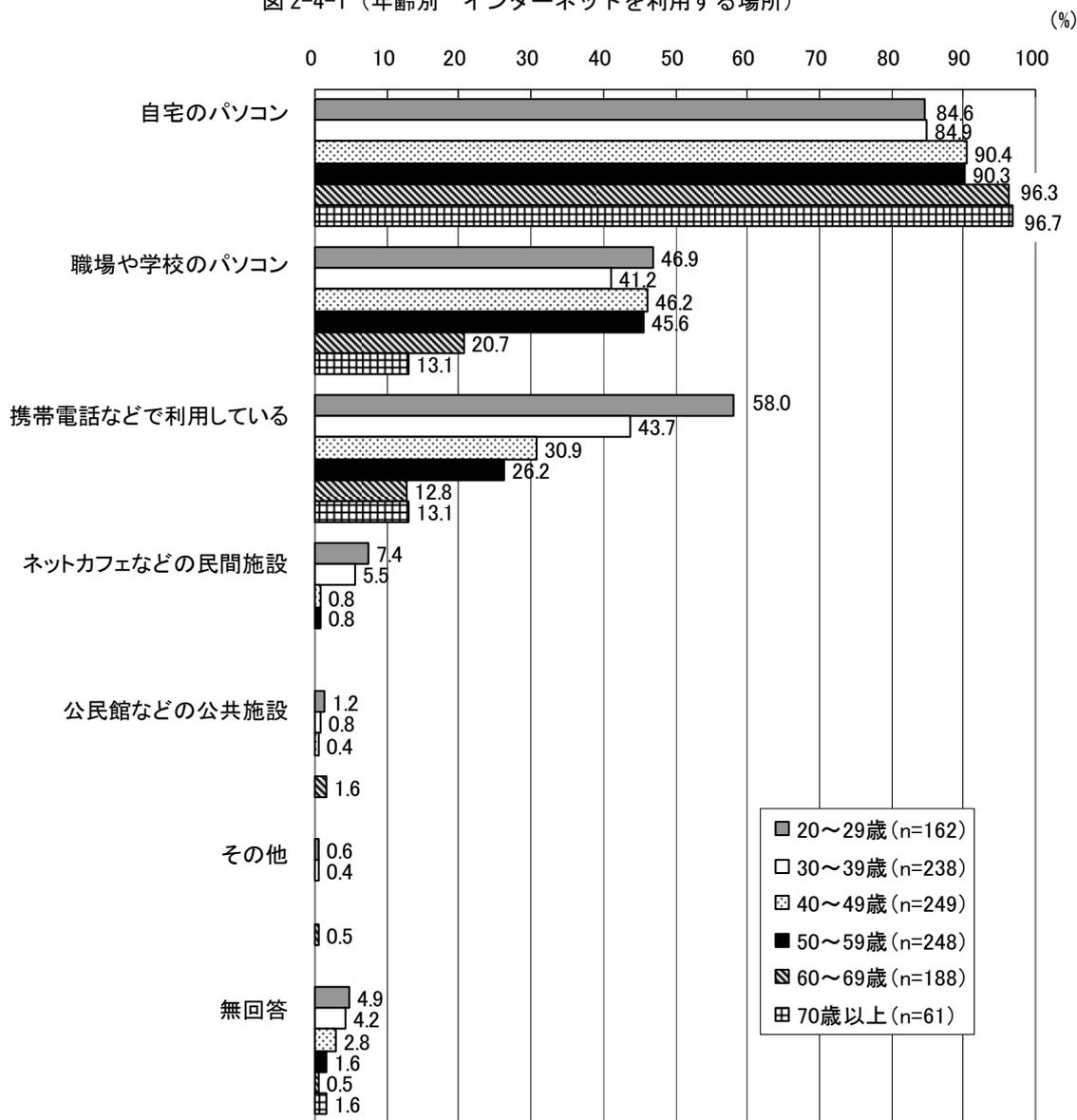
問 3-2 「2. 利用している」と回答された方に伺います。インターネットを主に利用する場所はどこですか。(あてはまるもの3つ以内に○)

図 2-4 (インターネットを利用する場所) 【n=1,149】



インターネットを利用していると回答した人に、利用する場所を尋ねたところ、「自宅のパソコン」が89.7%で最も高く、次いで「職場や学校のパソコン (39.2%)」、「携帯電話などで利用している (32.5%)」の順となっている。(図 2-4)

図 2-4-1 (年齢別 インターネットを利用する場所)

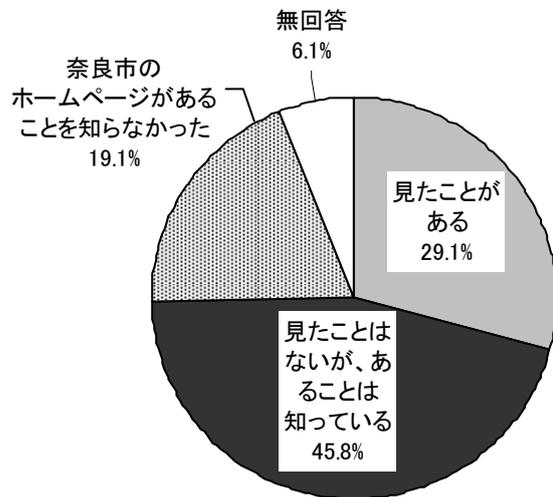


年齢別にみると、60歳以上では「自宅のパソコン」が96%と割合が高い。「携帯電話などで利用している」は、年代が低いほど利用率が高く、20～29歳で5割を超えている。(図 2-4-1)

2-5 市のホームページの認知度

問4 奈良市のホームページを見たことがありますか。(1つ選択)

図 2-5 (市のホームページの認知度)【n=1,980】



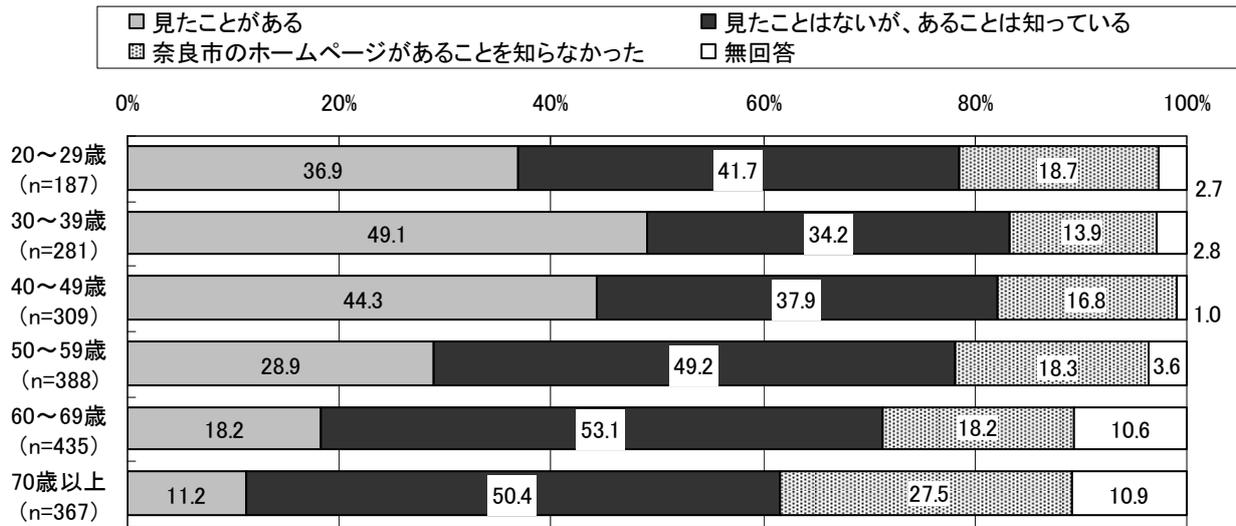
市のホームページについて「見たことはないが、あることは知っている」が45.8%で最も高く、次いで「見たことがある」が29.1%で74.9%の人に認知されている。その一方で、「奈良市のホームページがあることを知らなかった」は19.1%となっている。(図 2-5)

表 2-5-1 (平成 13 年度調査結果 市のホームページの認知度)

	全体	見たことがある	見たことはないが、市のホームページがあるのは知っている	奈良市のホームページがあることを知らなかった	無回答
全体	749	180	325	241	3
	100.0	24.0	43.4	32.2	0.4

平成 13 年度「奈良市政についての世論調査」と比較すると、「見たことがある」は 5.1 ポイント、「見たことはないが、あることは知っている」は 2.4 ポイント前回調査を上回っている。「奈良市のホームページがあることを知らなかった」は 13.1 ポイント前回調査より下回っている。(表 2-5-1)

図 2-5-2 (年齢別 市のホームページの認知度)

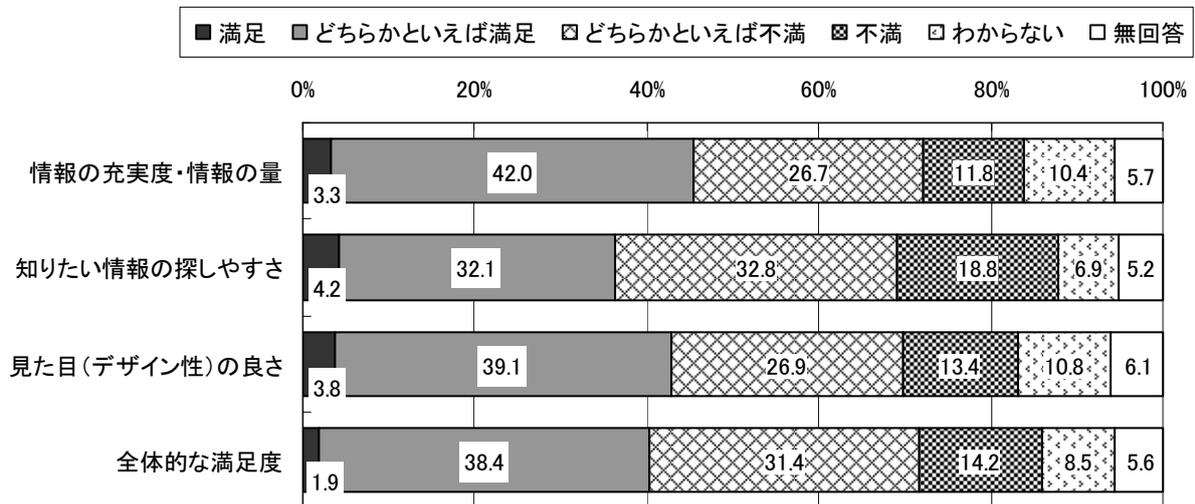


年齢別にみると、30～49歳では、「見たことがある」が5割近く、50歳以上では「見たことはないが、あることは知っている」が5割前後で最も高くなっている。(図 2-5-2)

2-6 市のホームページの満足度

問 4-1 「1. 見たことがある」と回答された方に伺います。奈良市のホームページの各項目の満足度をお答えください。(各項目1つ選択)

図 2-6 (市のホームページの満足度) 【n=576】



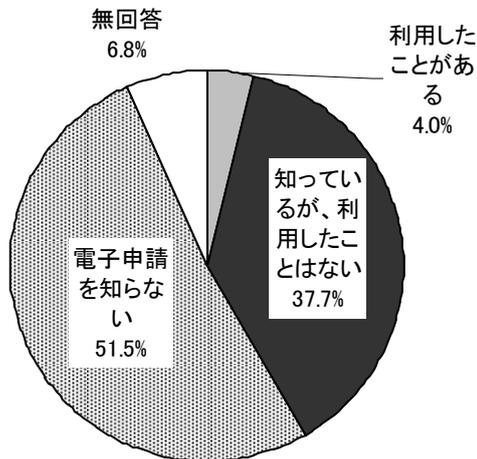
市のホームページを見たことがある人に、それぞれ満足度を尋ねたところ、『情報の充実度・情報の量』と『見た目(デザイン性)の良さ』は、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が4割強で満足度が高くなっている。

一方、『知りたい情報の探しやすさ』と『全体的な満足度』では、「どちらかといえば不満」と「不満」の合計が5割前後となっており、満足度より不満度が高くなっている。(図 2-6)

2-7 奈良電子自治体共同運営ポータルサイトの利用度

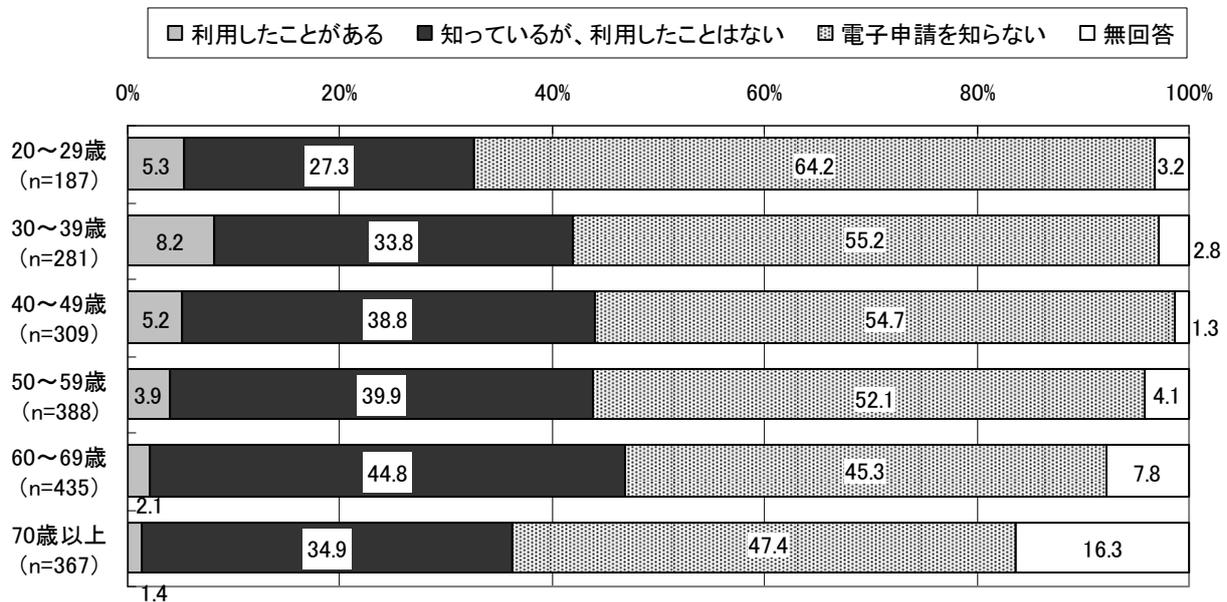
問5 インターネットから申請・届出やイベント申込、施設予約ができる奈良電子自治体共同運営ポータルサイト（電子申請）を利用したことがありますか。（1つ選択）

図 2-7（奈良電子自治体共同運営ポータルサイトの利用度）【n=1,980】



奈良電子自治体共同運営ポータルサイトについて、「電子申請を知らない」が51.5%で最も高く、「知っているが、利用したことはない（37.7%）」と合計すると89.2%の人が未利用となっている。「利用したことがある」は4.0%にとどまっている。（図2-7）

図 2-7-1（年齢別 奈良電子自治体共同運営ポータルサイトの利用度）

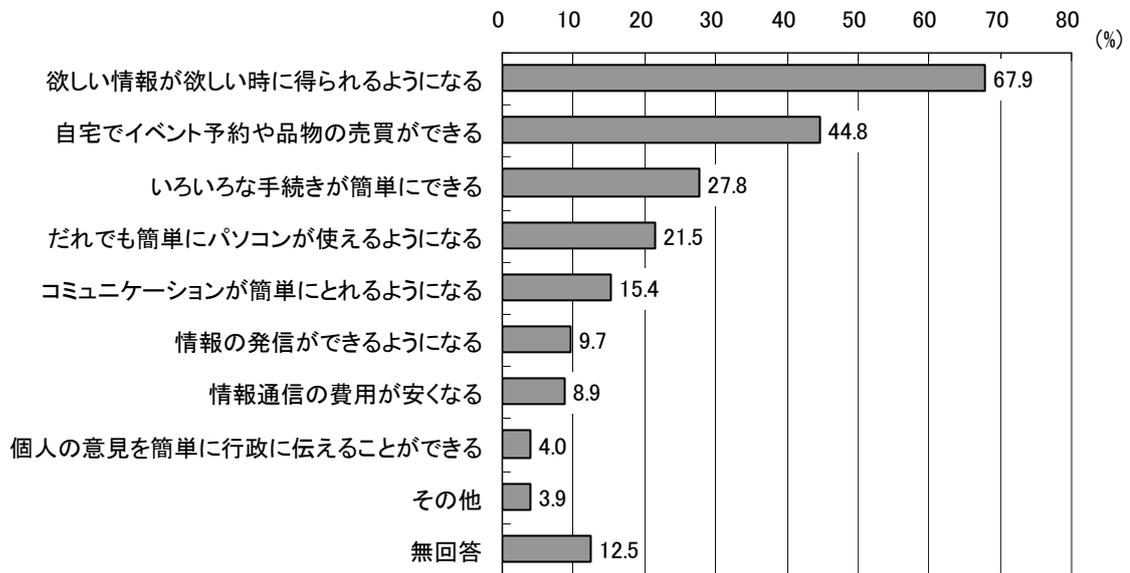


年齢別にみると、20～29歳は「電子申請を知らない」が64.2%と他の年齢層と比べて認知度が低い。（図2-7-1）

2-8 生活の情報化について

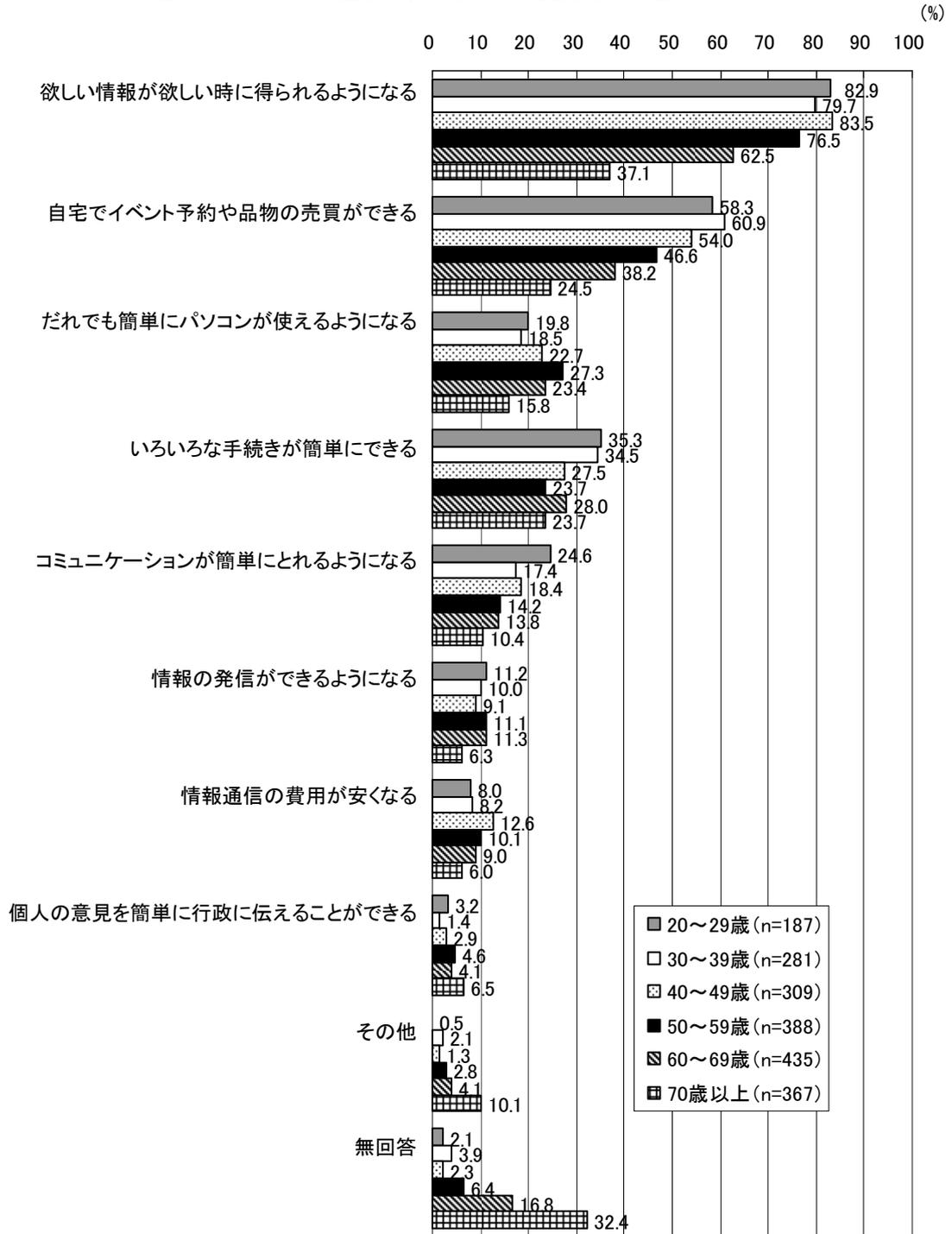
問6 自分の生活で情報化が進んだと感じるのはどのような時ですか。
(あてはまるもの3つ以内に○)

図 2-8 (生活の情報化が進んだと感じること)【n=1,980】



生活の情報化が進んだと感じるのは、「欲しい情報が欲しい時に得られるようになる」が67.9%で最も高く、次いで「自宅でイベント予約や品物の売買ができる (44.8%)」、「いろいろな手続きが簡単にできる (27.8%)」、「だれでも簡単にパソコンが使えるようになる (21.5%)」の順となっている。(図 2-8)

図 2-8-1 (年齢別 生活の情報化が進んだと感じること)

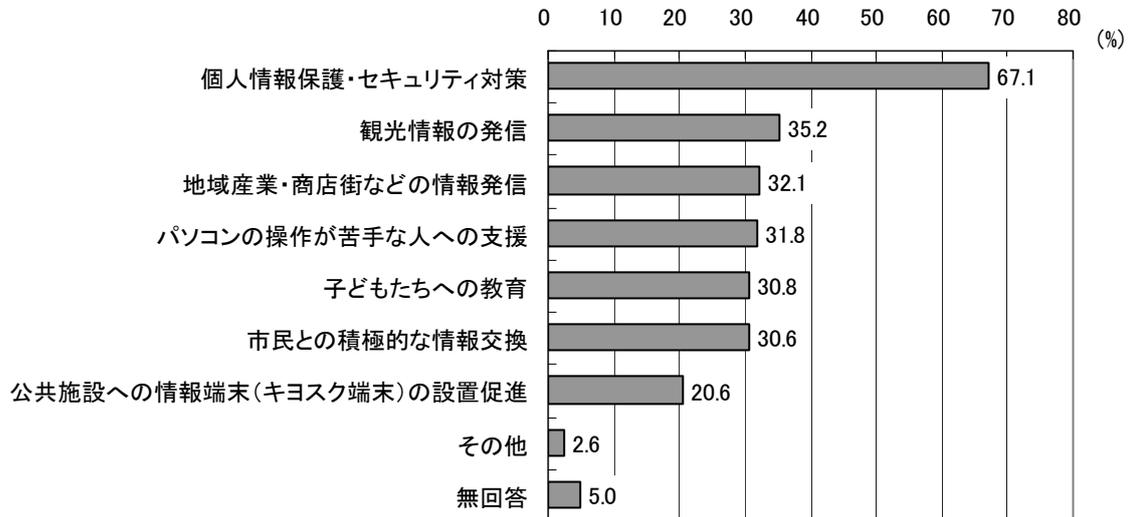


年齢別にみると、20～59歳は「欲しい情報が欲しい時に得られるようになる」が約8割と他の年齢層よりも割合が高い。とりわけ20～39歳は「自宅でイベント予約や品物の売買ができる」が約6割、「いろいろな手続きが簡単にできる」が3割強となっており、情報化が進んだと感じている割合が高くなっている。また、20～29歳は「コミュニケーションが簡単にとれるようになる」が24.6%となっている。(図 2-8-1)

2-9 情報化を進めるにあたり重点を置くべきこと

問7 これからの情報化社会に向けて、奈良市が情報化を進めるにあたり、どのようなことに重点をおいて取り組んでいけばよいと思いますか。
(あてはまるもの3つに○)

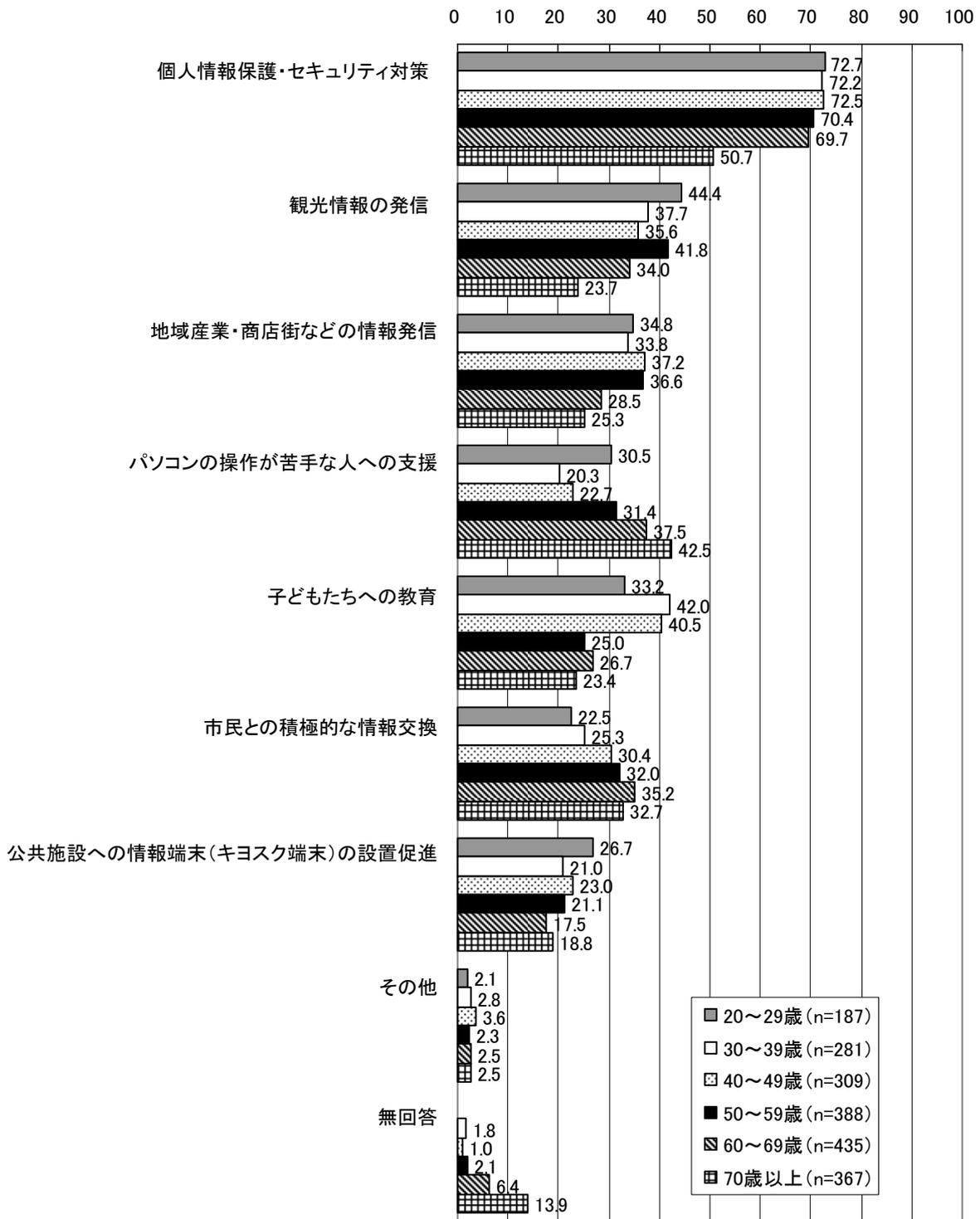
図 2-9 (情報化を進めるにあたり重点を置くべきこと)【n=1,980】



市が情報化を進めるにあたり、重点をおいて取り組んでいけばよいと思うことは、「個人情報保護・セキュリティ対策」が67.1%で最も高く、次いで「観光情報の発信(35.2%)」、「地域産業・商店街などの情報発信(32.1%)」、「パソコンの操作が苦手な人への支援(31.8%)」、「子どもたちへの教育(30.8%)」、「市民との積極的な情報交換(30.6%)」が3割台で続いている。(図 2-9)

図 2-9-1 (年齢別 情報化を進めるにあたり重点を置くべきこと)

(%)

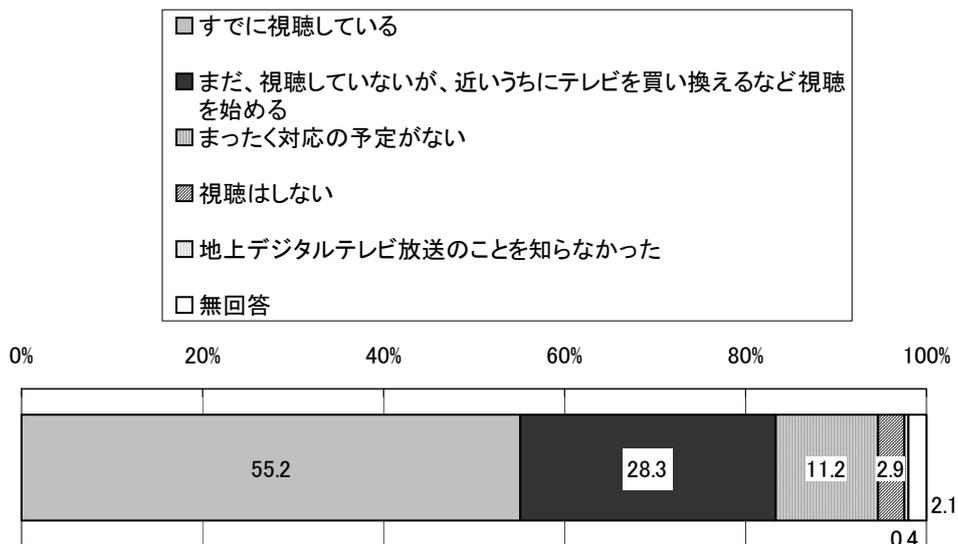


年齢別にみると、20～29歳は「観光情報の発信」、30～49歳は「子どもたちへの教育」、70歳以上は「パソコンの操作が苦手な人への支援」がそれぞれ約4割と他の年齢層よりも割合が高くなっている。(図 2-9-1)

2-10 地上デジタル放送の視聴状況

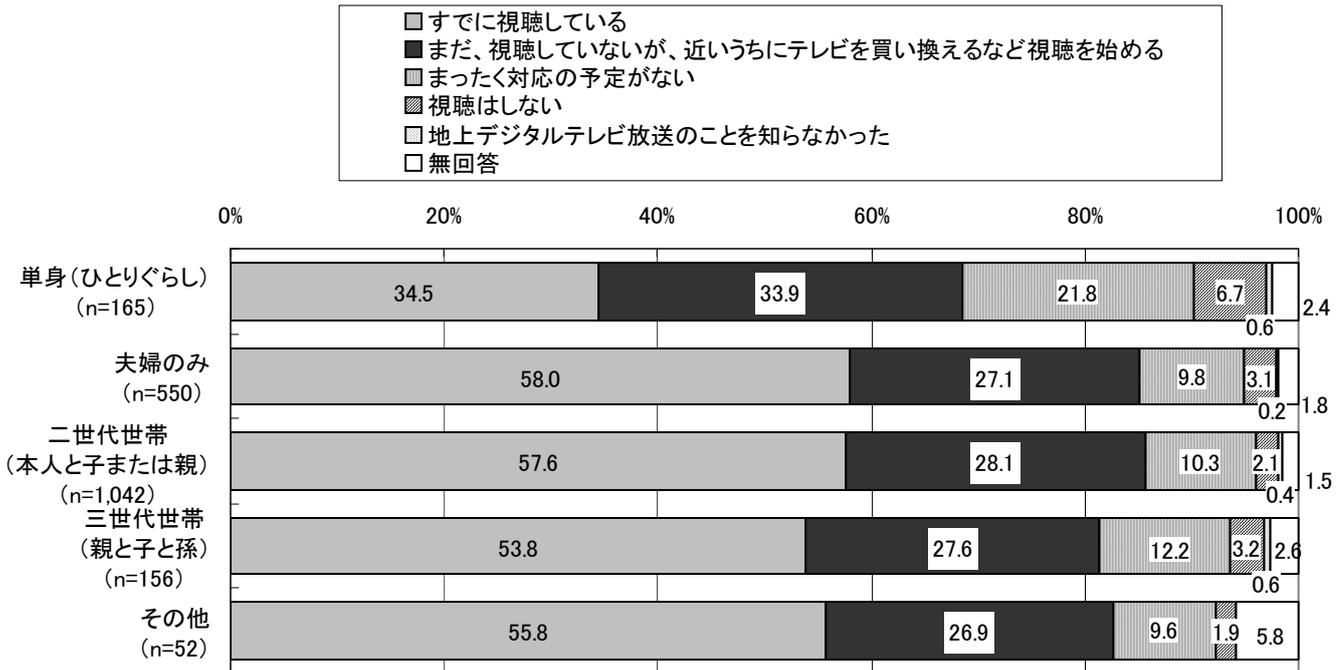
問8 国では、テレビ放送のデジタル化への移行を行っており、2011年7月24日までに現行のアナログテレビ放送が終了します。あなたは、地上デジタル放送（地デジ）対応テレビやチューナーなどで地上デジタルテレビ放送を視聴していますか。（1つ選択）

図 2-10（地上デジタル放送の視聴状況）【n=1,980】



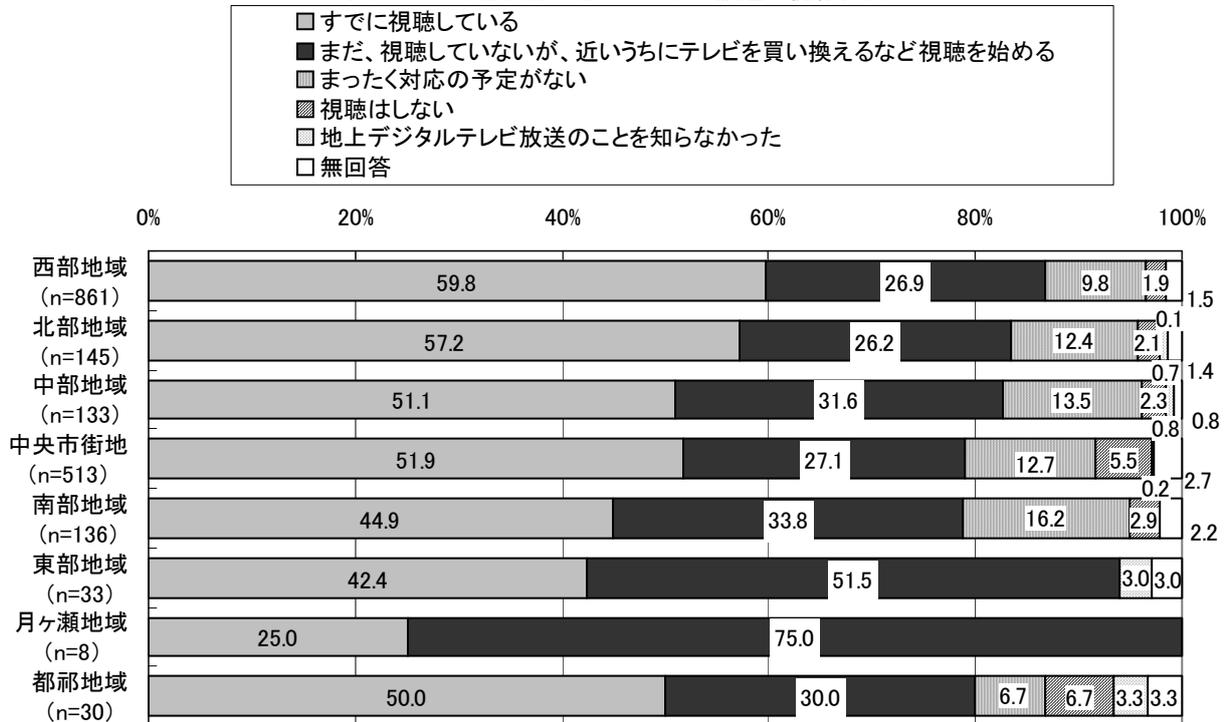
地上デジタル放送を「すでに視聴している」が 55.2%で最も高く、次いで「まだ、視聴していないが、近いうちにテレビを買い換えるなど視聴を始める（28.3%）」、「まったく対応の予定がない（11.2%）」の順となっている。（図 2-10）

図 2-10-1 (家族構成別 地上デジタル放送の視聴状況)



家族構成別にみると、単身(ひとりぐらし)は「まったく対応の予定がない」が21.8%となっている。(図 2-10-1)

図 2-10-2 (地域別 地上デジタル放送の視聴状況)



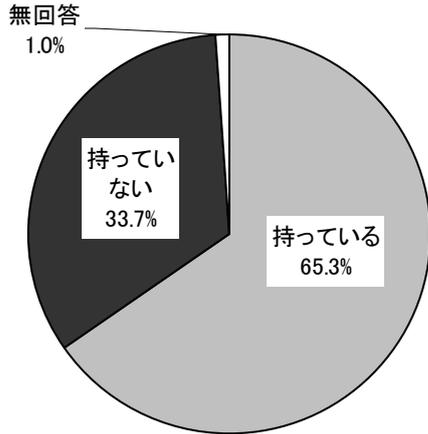
地域別にみると、南部地域、東部地域、月ヶ瀬地域において「すでに視聴している」の割合が5割以下であり、他の地域と比べて低い。(図 2-10-2)

3. 墓地について

3-1 墓地の保有状況

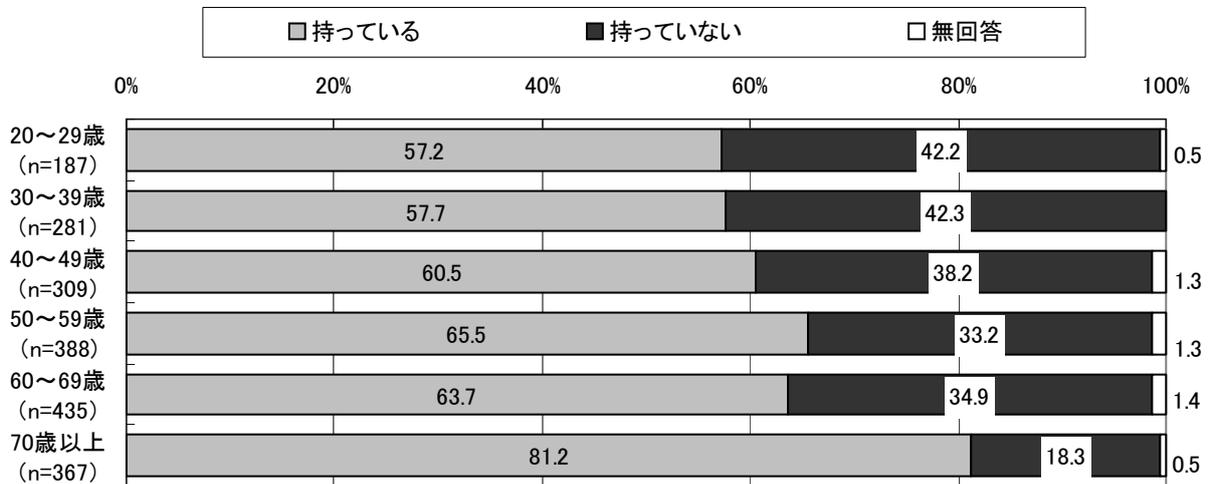
問9 あなた（あなたの家族）は、墓地をお持ちですか。（1つ選択）

図 3-1（墓地の保有状況）【n=1,980】



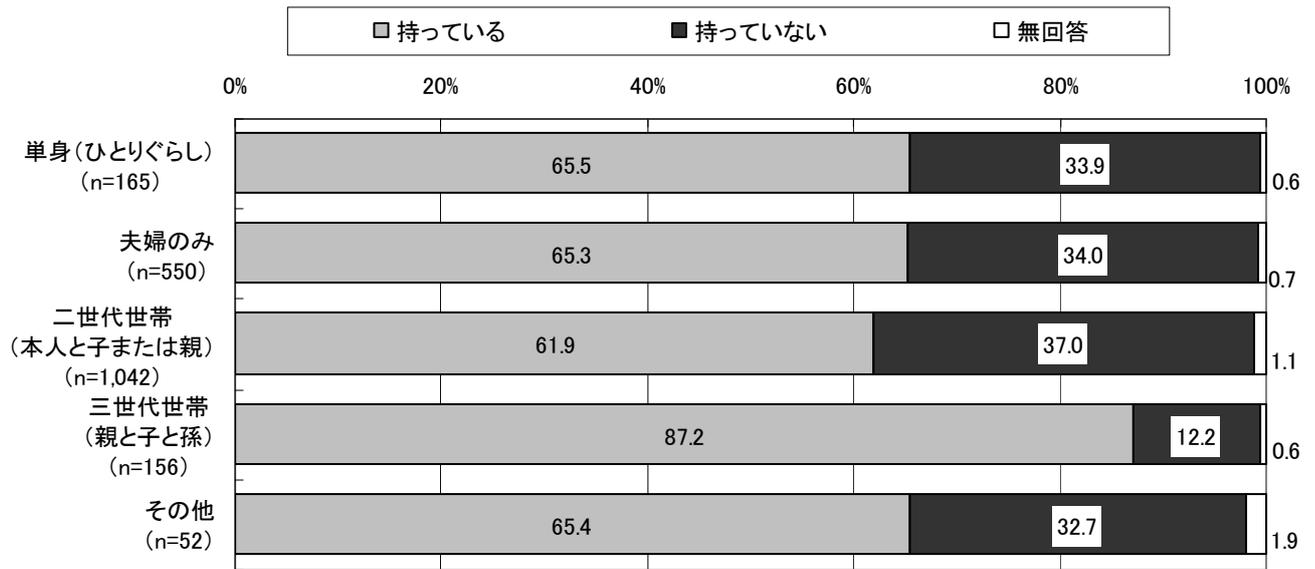
墓地の保有状況は、「持っている」が 65.3%、「持っていない」が 33.7%となっている。（図 3-1）

図 3-1-1（年齢別 墓地の保有状況）



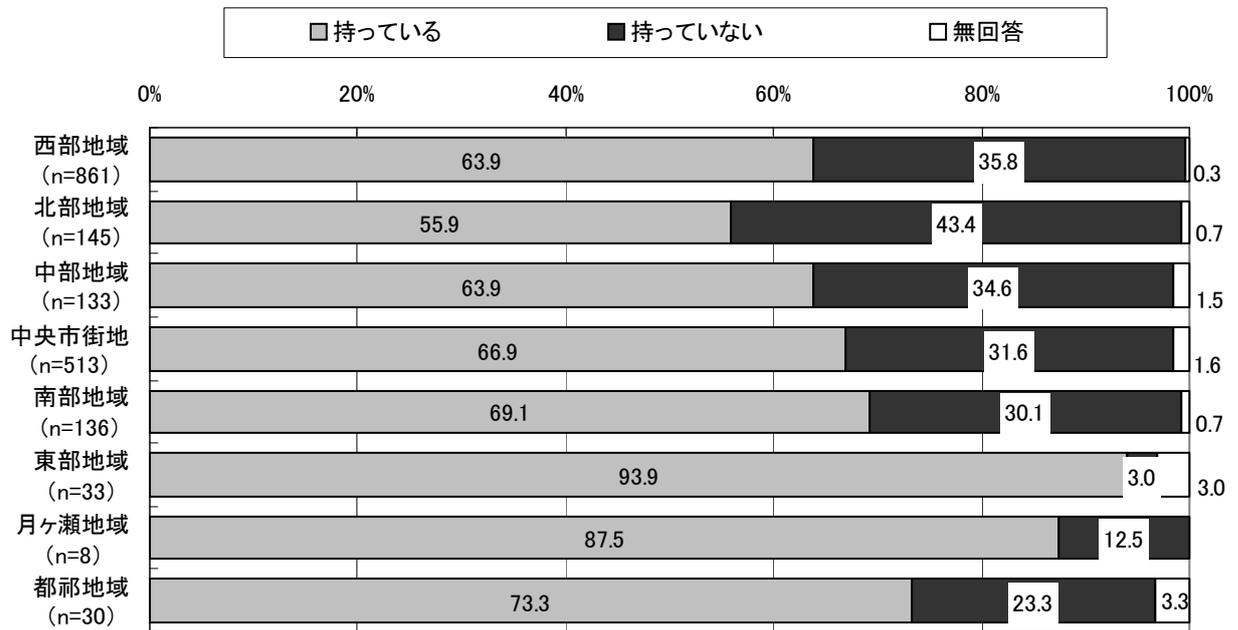
年齢別にみると、20～39歳は「持っていない」が4割強で他の年齢層よりも割合が高い。70歳以上では「持っている」が8割強を占めている。（図 3-1-1）

図 3-1-2 (家族構成別 墓地の保有状況)



家族構成別にみると、三世帯世帯（親と子と孫）では「持っている」が 87.2%と高くなっている。(図 3-1-2)

図 3-1-3 (地域別 墓地の保有状況)

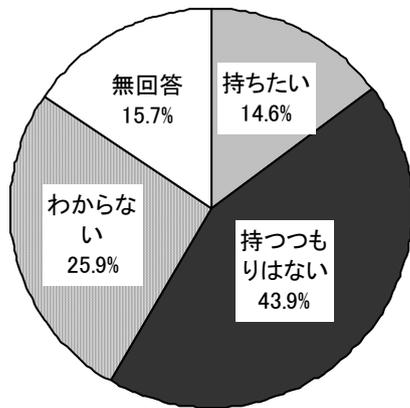


地域別にみると、北部地域では「持っていない」が 43.4%、東部地域と月ヶ瀬地域では「持っている」が 9割前後となっている。(図 3-1-3)

3-2 墓地の保有意向

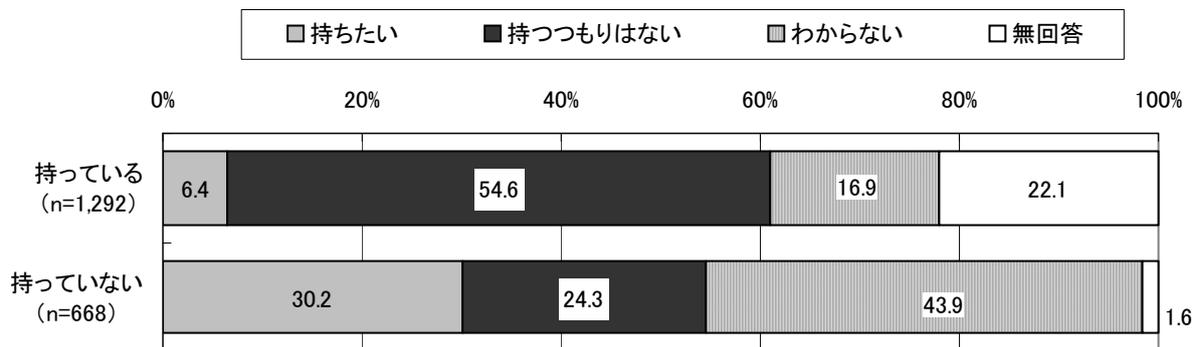
問10 あなたは、将来新しく墓地を持ちたいと思いますか。(1つ選択)

図 3-2 (墓地の保有意向) 【n=1,980】



墓地の保有意向については、「持つつもりはない」が43.9%で最も高く、次いで「わからない(25.9%)」、「持ちたい(14.6%)」の順となっている。(図 3-2)

図 3-2-1 (墓地の保有状況別 墓地の保有意向)

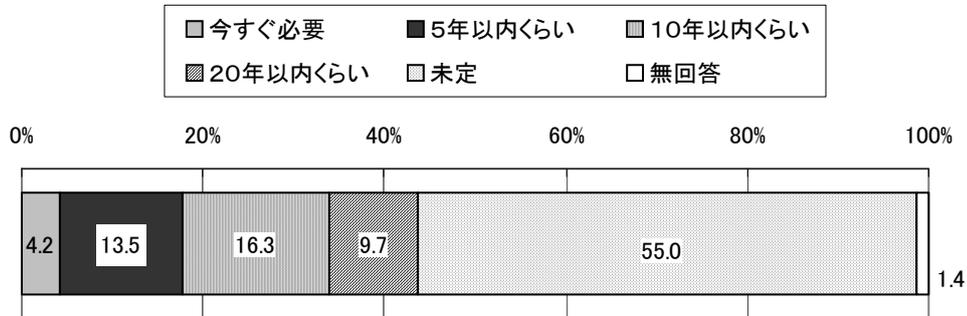


墓地の保有状況別にみると、墓地を持っている人は「持つつもりはない」が54.6%で最も高い。墓地を持っていない人は「わからない」が43.9%で最も高く、次に「持ちたい」が30.2%となっている。(図 3-2-1)

3-3 墓地を保有したいと思う時期

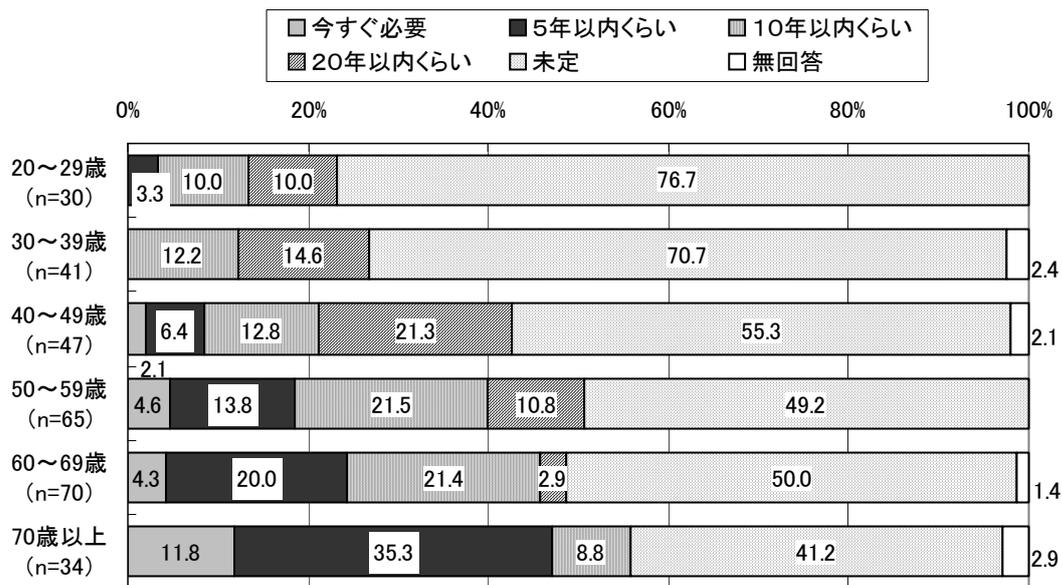
問 10-1 その時期はいつごろですか。(1つ選択)

図 3-3 (墓地を保有したいと思う時期)【n=289】



保有したい時期は「未定」が 55.0%で最も高い割合となっている。次いで「10年以内くらい (16.3%)」、「5年以内くらい (13.5%)」「20年以内くらい (9.7%)」の順となっている。(図 3-3)

図 3-3-1 (年齢別 墓地を保有したいと思う時期)

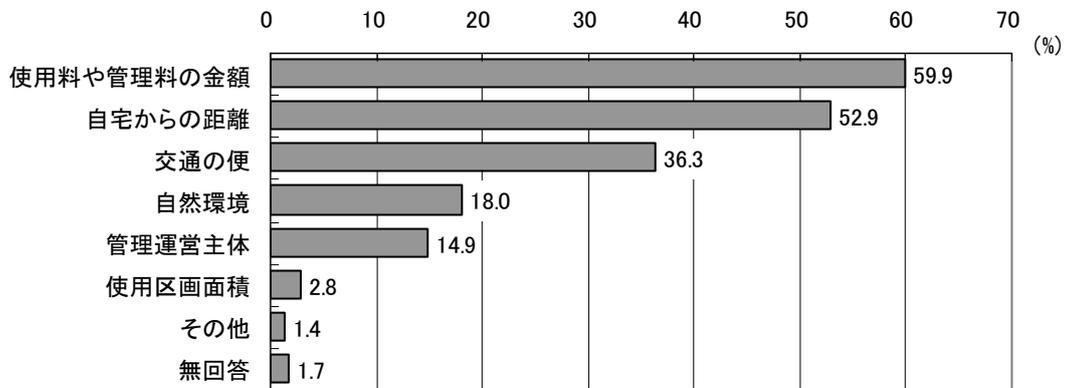


年齢別にみると、20~39歳は「未定」が7割台で最も高い。70歳以上では「今すぐ必要」が11.8%、「5年以内くらい」が35.3%で他の年齢層と比べて保有したい時期が早い。(図 3-3-1)

3-4 墓地を求めらるうえで重要視する点

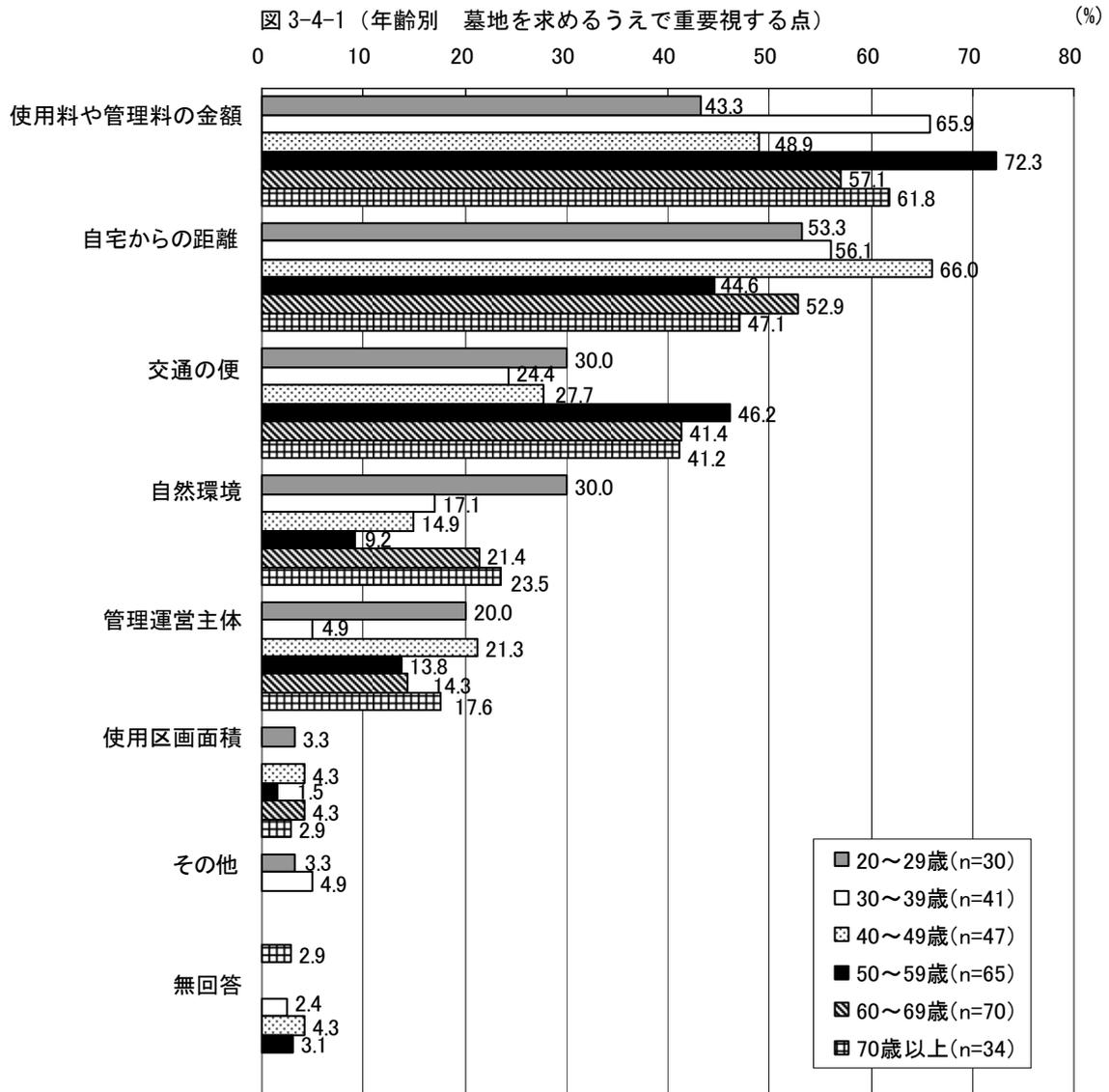
問 10-2 あなたは、墓地を求めらるうえで重要視する点は何ですか。

図 3-4 (墓地を求めらるうえで重要視する点) 【n=289】



重視する点は、「使用料や管理料の金額」が 59.9%で最も高く、次いで「自宅からの距離 (52.9%)」、「交通の便 (36.3%)」の順となっている。(図 3-4)

図 3-4-1 (年齢別 墓地を求めらるうえで重要視する点)

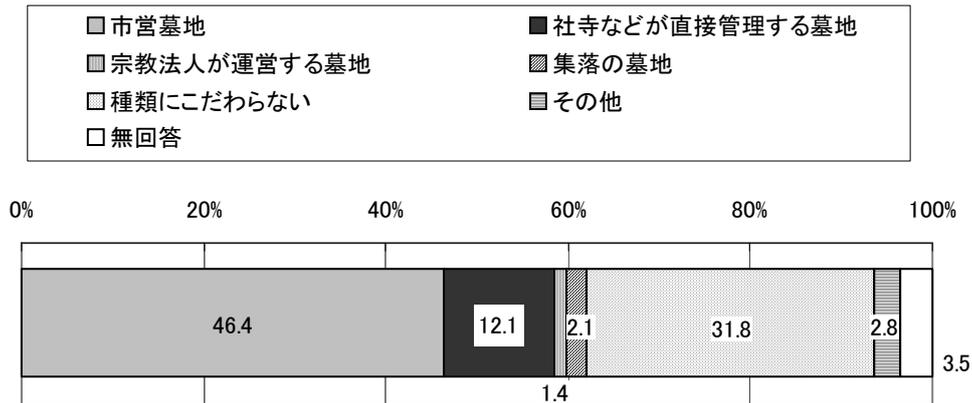


年齢別にみると、40～49歳は「自宅からの距離」が66.0%で最も高い。また、50～59歳では「使用料や管理料の金額」が72.3%となっており、他の年齢層よりも割合が高い。(図3-4-1)

3-5 希望する墓地の種類

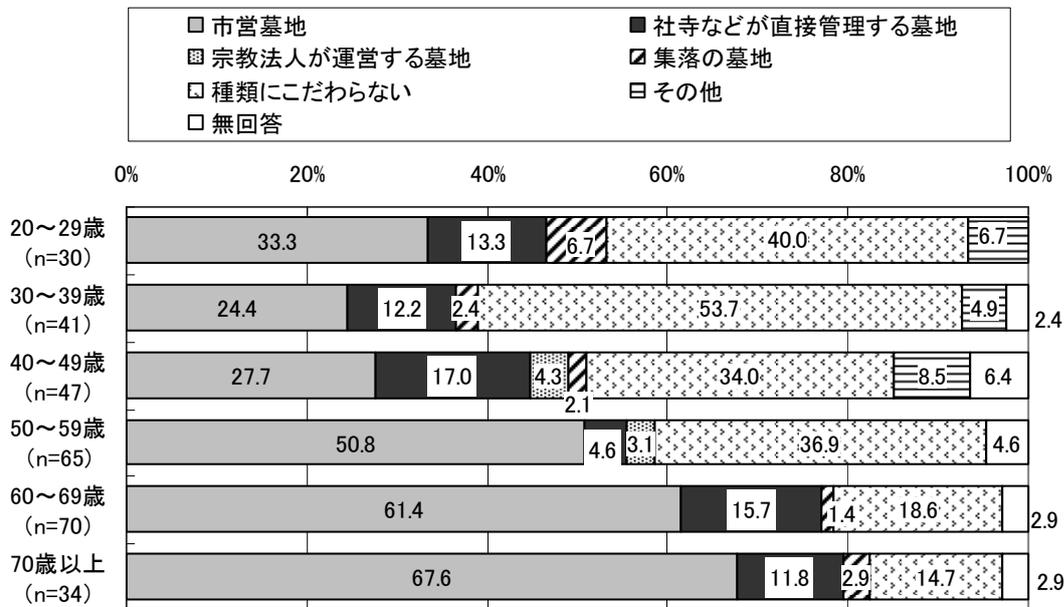
問 10-3 あなたは、どのような種類の墓地を希望しますか。(1つ選択)

図 3-5 (希望する墓地の種類) 【n=289】



希望する墓地の種類は、「市営墓地」が46.4%で最も高く、次いで「種類にこだわらない(31.8%)」、「社寺などが直接管理する墓地(12.1%)」の順となっている。(図3-5)

図 3-5-1 (年齢別 希望する墓地の種類)

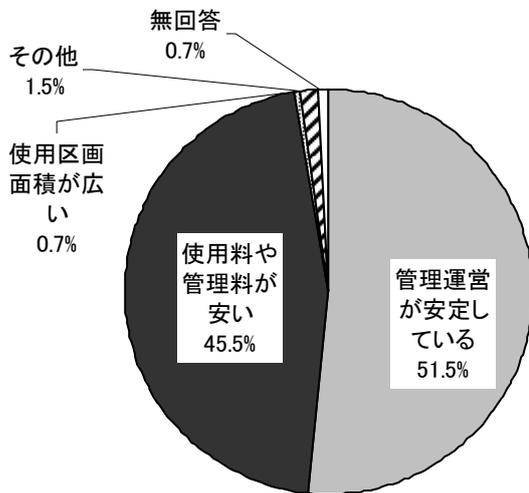


年齢別にみると、20～49歳は「種類にこだわらない」が3～5割で最も高いが、50歳以上では「市営墓地」が5割以上となっている。(図3-5-1)

3-6 市営墓地を希望する理由

問 10-3-1 あなたが、市営墓地を希望する理由は何ですか。(1つ選択)

図 3-6 (市営墓地を希望する理由)【n=134】



市営墓地を希望する理由は、「管理運営が安定している」が51.5%で最も高い割合となっており、次いで「使用料や管理料が安い」が45.5%となっている。

問 1 1 墓地について、あなたの自由なご意見をお聞かせください。(自由回答)

墓地について、795人(40.2%)の方からご意見やご要望の回答があった。分類すると次のとおりであり、「墓地を持つことへの考え方について」が53.2%で最も多かった。

表 墓地についての意見(自由回答)

大分類	回答数	構成比
墓地の環境や整備について	232	27.4%
墓地の管理について	103	12.2%
墓地を持つことへの考え方について	451	53.2%
法制度、慣習やしきたりについて	19	2.2%
その他	42	5.0%
全体	847	100.0%

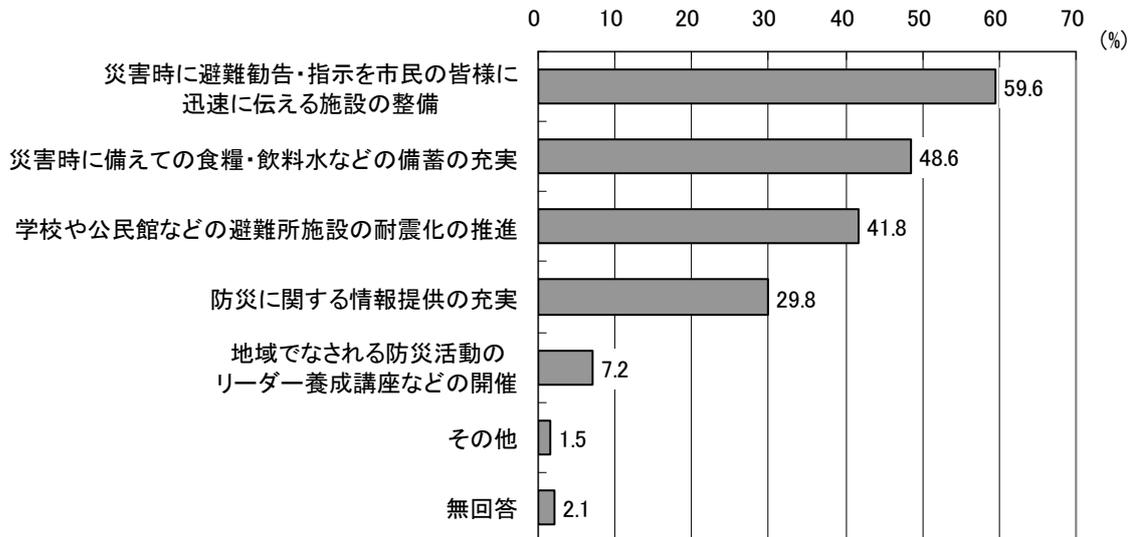
※回答者の中には、複数の内容を記述している人もおり、分類の計と回答者数は一致しない。

4. 防災対策について

4-1 市が防災対策として力を入れるべきこと

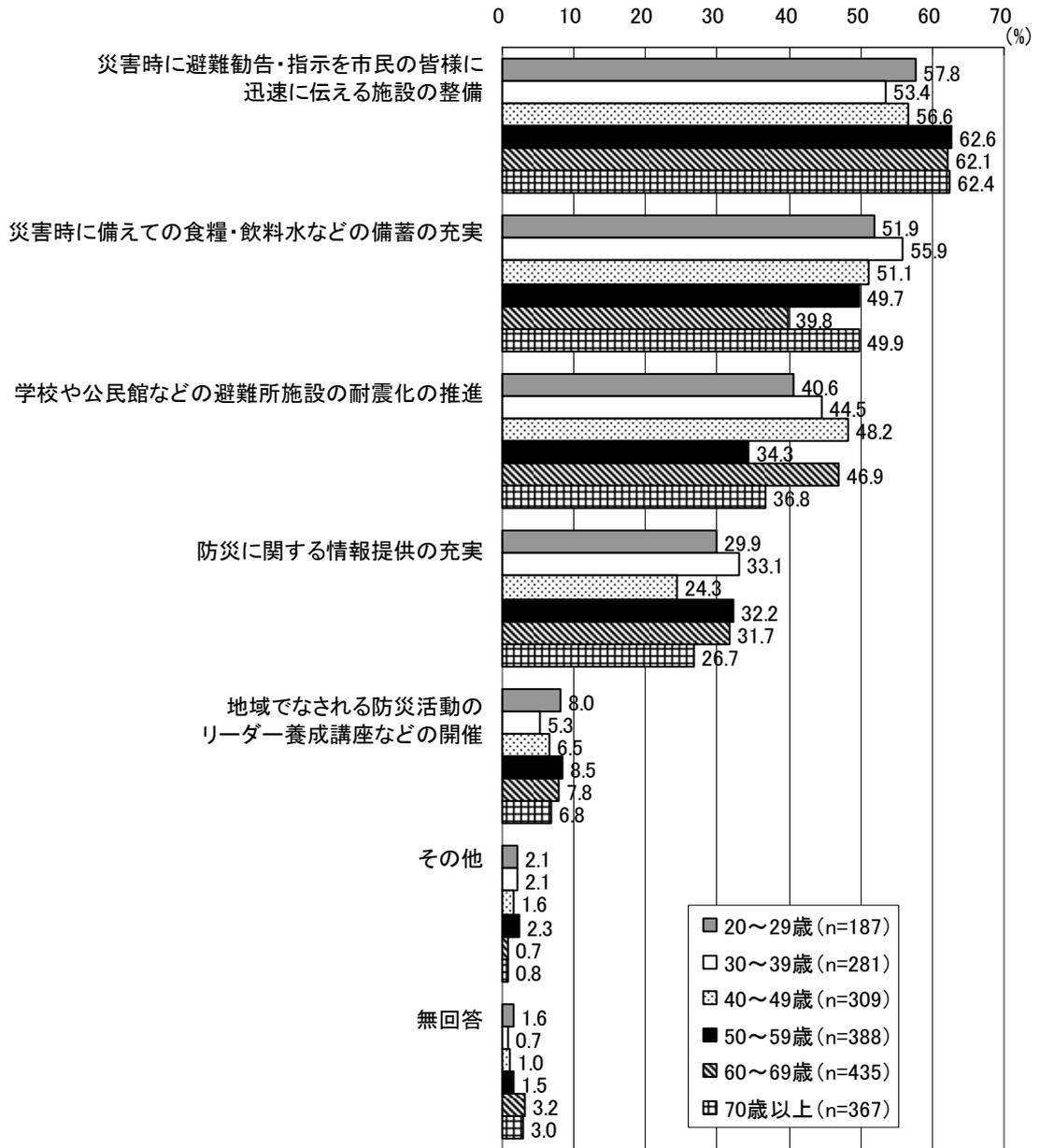
問12 防災対策としては、全ての対策が重要ですが、特に市が力を入れるべきと思われる取り組みはどの項目だと思われますか。(あてはまるもの2つ以内に○)

図4-1 (市が防災対策として力を入れるべきこと)【n=1,980】



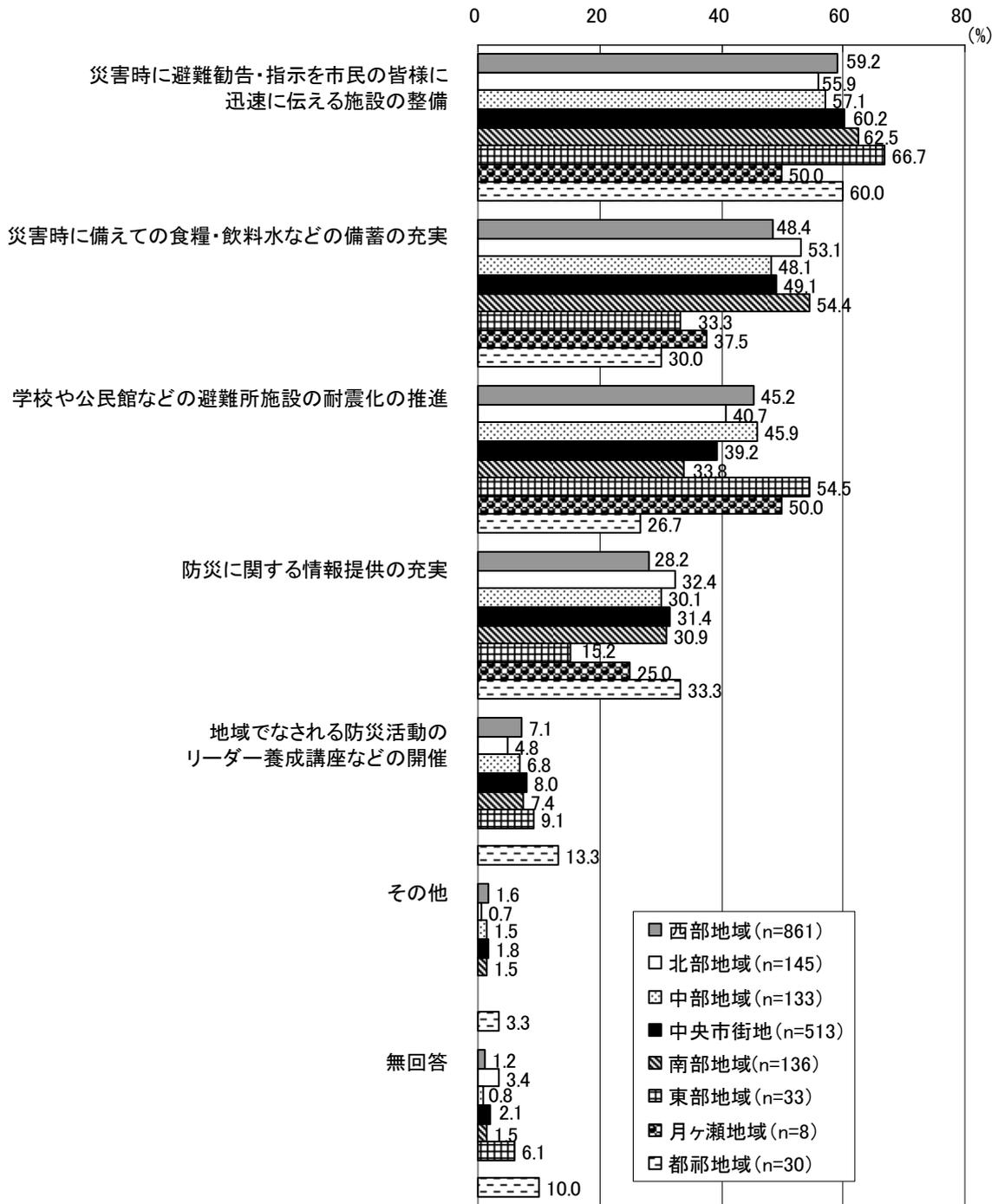
市が防災対策として力を入れるべきことは、「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様迅速に伝える施設の整備」が59.6%で最も高く、次いで「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」(48.6%)、「学校や公民館などの避難所施設の耐震化の推進」(41.8%)となっている。(図4-1)

図 4-1-1 (年齢別 市が防災対策として力を入れるべきこと)



年齢別にみると、50歳代以上は、「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様迅速に伝える施設の整備」が高くなっており6割を超えている。一方、40歳代以下は「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」が5割を超えており、30～39歳が55.9%で最も高い。(図 4-1-1)

図 4-1-2 (地域別 市が防災対策として力を入れるべきこと)

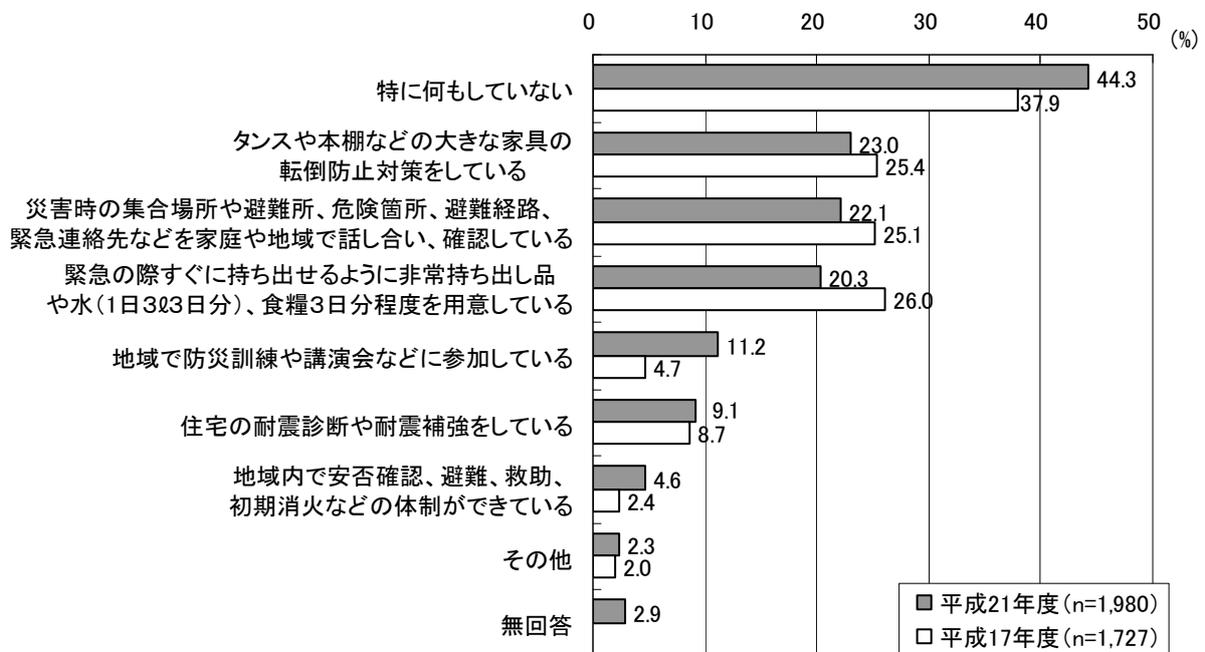


地域別にみると、東部地域では「学校や公民館などの避難所施設の耐震化の推進」が54.5%と他の地域よりも高くなっている。北部地域と南部地域では、「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」が他の地域よりやや高く5割を超えている。(図 4-1-2)

4-2 家庭や地域で行っている防災対策

問13 防災対策として、ご家庭や地域で行っておられる取り組みは、ありますか。
(あてはまるものすべてに○)

図4-2 (家庭や地域で行っている防災対策)【n=1,980】

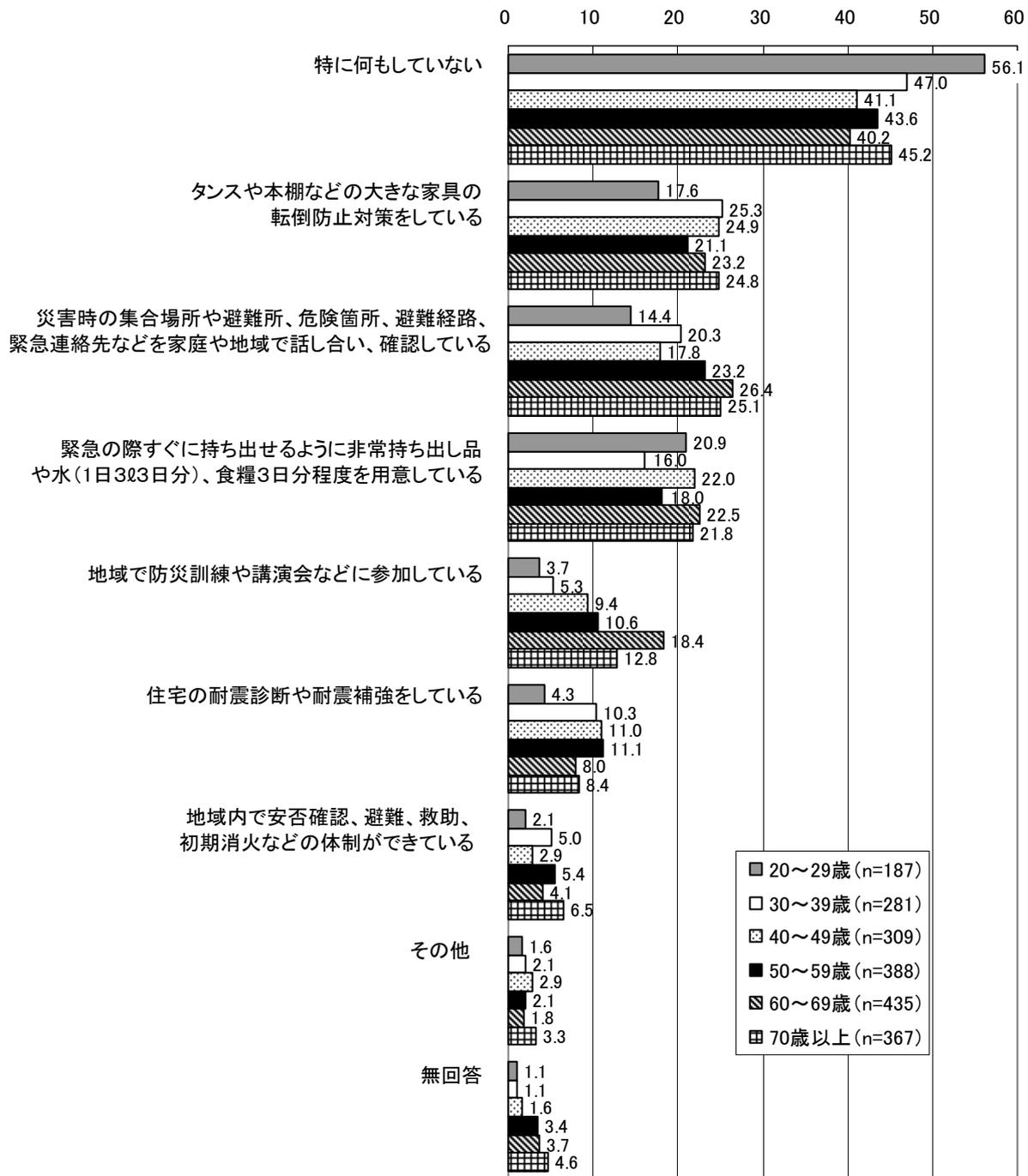


家庭や地域で行っている防災対策は、「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」(23.0%)、「災害時の集合場所や避難所、危険箇所、避難経路、緊急連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」(22.1%)、「緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水(1日3ℓ3日分)、食糧3日分程度を用意している」(20.3%)がほぼ同率で2割程度である。一方、「特に何もしていない」は44.3%と4割を超えている。

平成17年度の「奈良市民意識調査」と比較すると、「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」、「災害時の集合場所や避難所、危険箇所、避難経路、緊急連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」、「緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水(1日3ℓ3日分)、食糧3日分程度を用意している」は前回調査を下回っており、「特に何もしていない」は前回調査を6.4ポイント上回っている。「地域で防災訓練や講演会などに参加している」は前回調査を6.5ポイント上回っている。(図4-2)

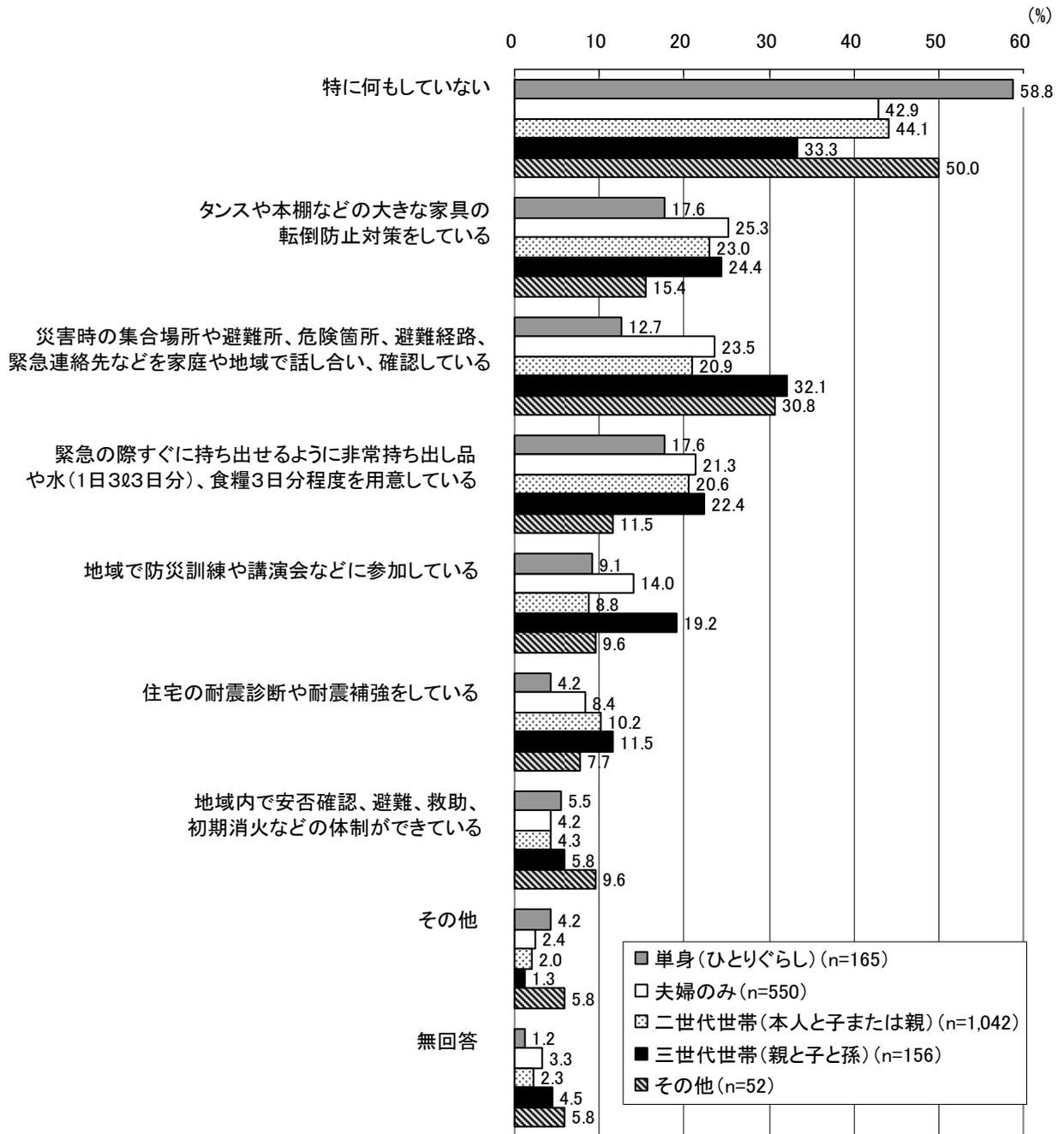
図 4-2-1 (年齢別 家庭や地域で行っている防災対策)

(%)



年齢別にみると、20歳代は「特に何もしていない」が56.1%と半数を超えており、他の年代と比べて防災対策の取り組みは大半の項目で低くなっている。(表 4-2-1)

図 4-2-2 (家族構成別 家庭や地域で行っている防災対策)



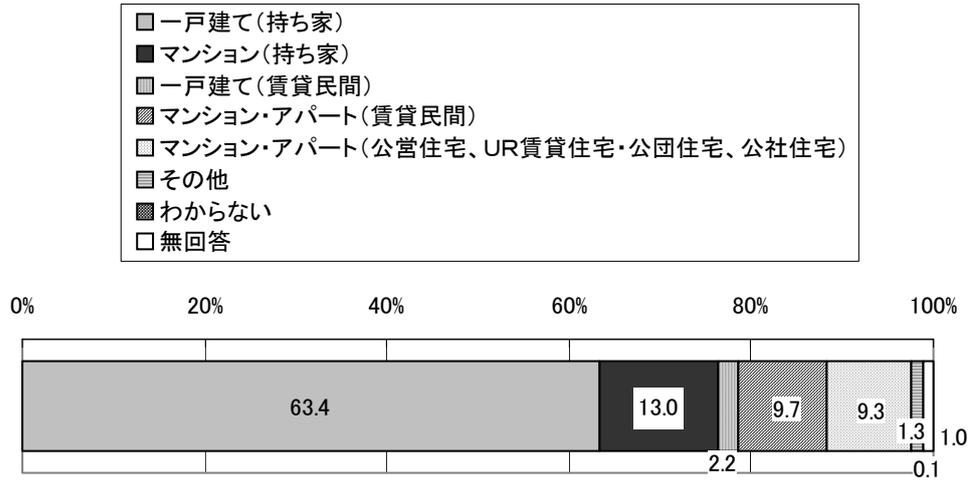
家族構成別にみると、三世帯世帯は「災害時の集合場所や避難所、危険箇所、避難経路、緊急連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」が32.1%と高く、「特に何もしていない」が33.3%と低い。逆に、単身世帯では「特に何もしていない」が58.8%で6割近くにのぼる。(図 4-2-2)

5. 住宅用火災警報器の設置について

5-1 住宅の形式

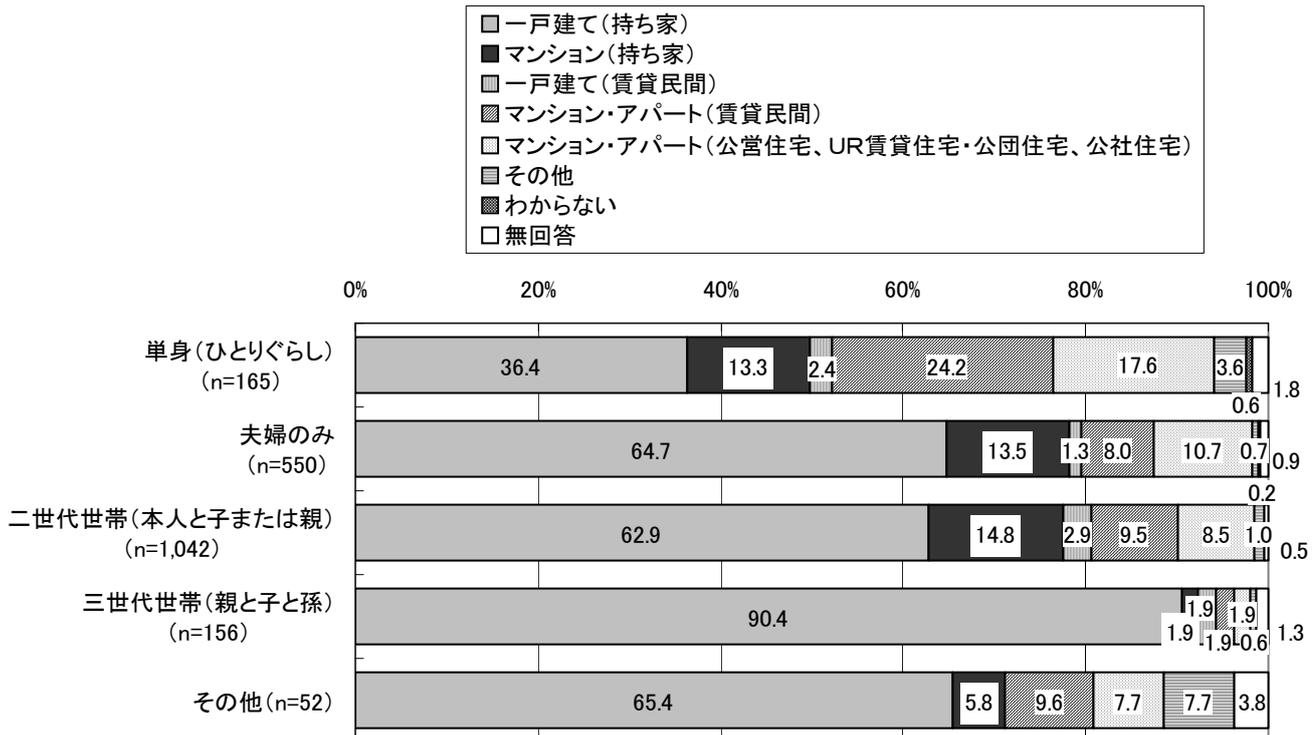
問14 住宅用火災警報器の設置状況をお聞きする前にお伺いします。あなたがお住まいの住宅の形式はどれになりますか。(1つ選択)

図 5-1 (住宅の形式) 【n=1,980】



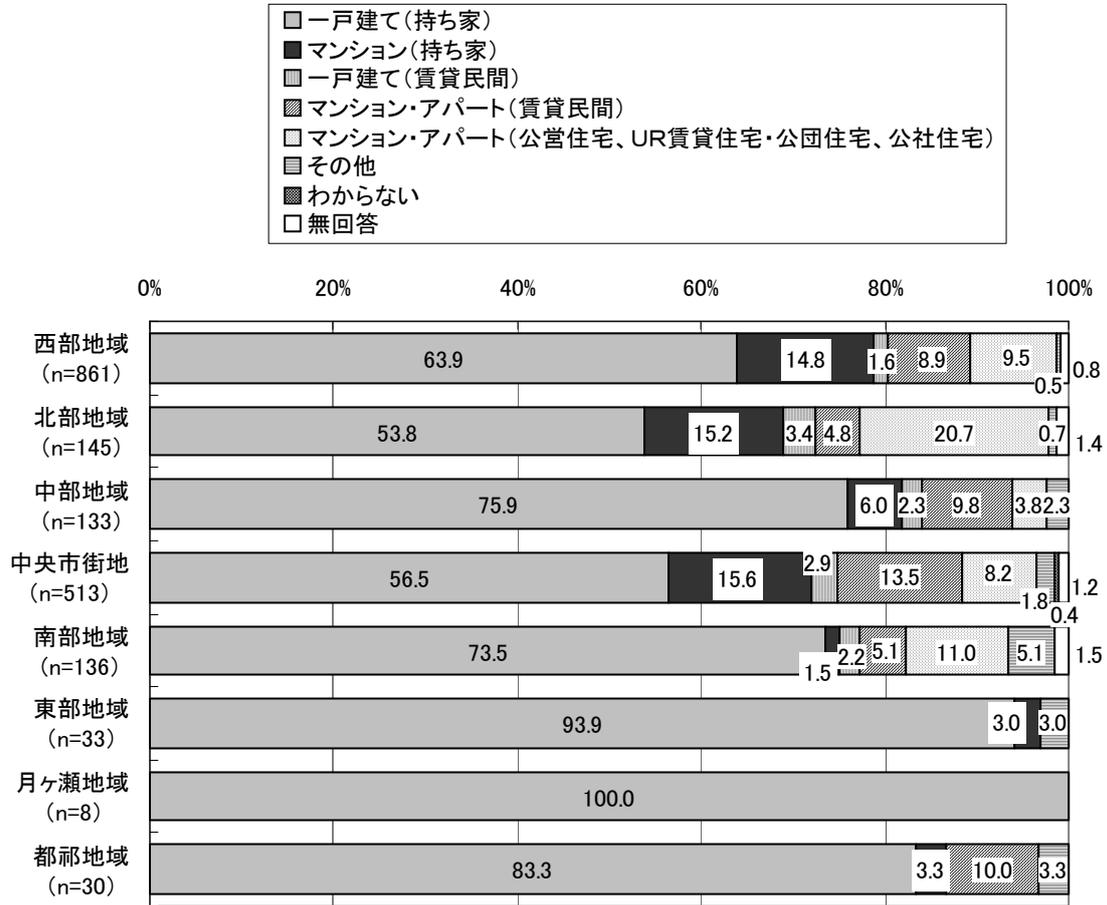
お住まいの住宅の形式は、「一戸建て(持ち家)」が6割強を占めている。次いで、「マンション(持ち家)」が13.0%、「マンション・アパート(賃貸民間)」が9.7%、「マンション・アパート(公営住宅、UR賃貸住宅・公団住宅、公社住宅)」が9.3%、「一戸建て(賃貸民間)」が2.2%という状況である。(図 5-1)

図 5-1-1 (家族構成別 住宅の形式)



家族構成別にみると、三世帯世帯では「一戸建て（持ち家）」が高く9割を占めている。
 (図 5-1-1)

図 5-1-2 (地域別 住宅の形式)

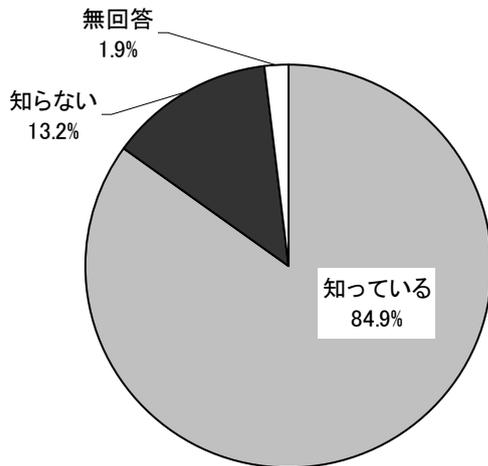


地域別にみると、月ヶ瀬地域、東部地域、中部地域、南部地域では「一戸建て（持ち家）」が他の地域より高い。(図 5-1-2)

5-2 住宅用火災警報器の義務付けについて

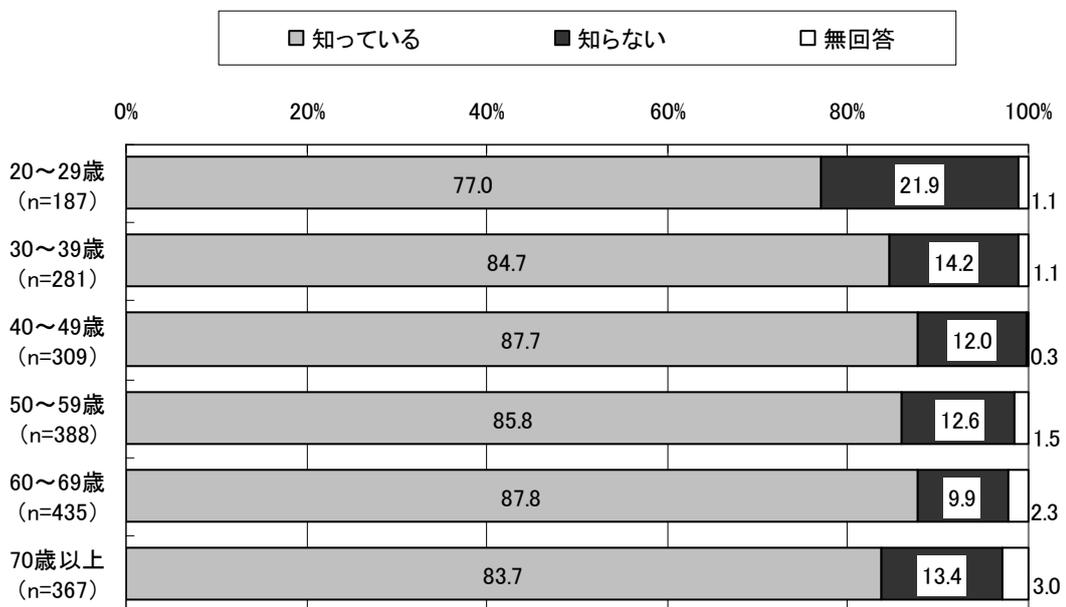
問15 消防法の改正により、住宅火災における死者数の低減を目的として、住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。あなたは、このことをご存知ですか。(1つ選択)

図 5-2 (住宅用火災警報器の義務付けについて) 【n=1,980】



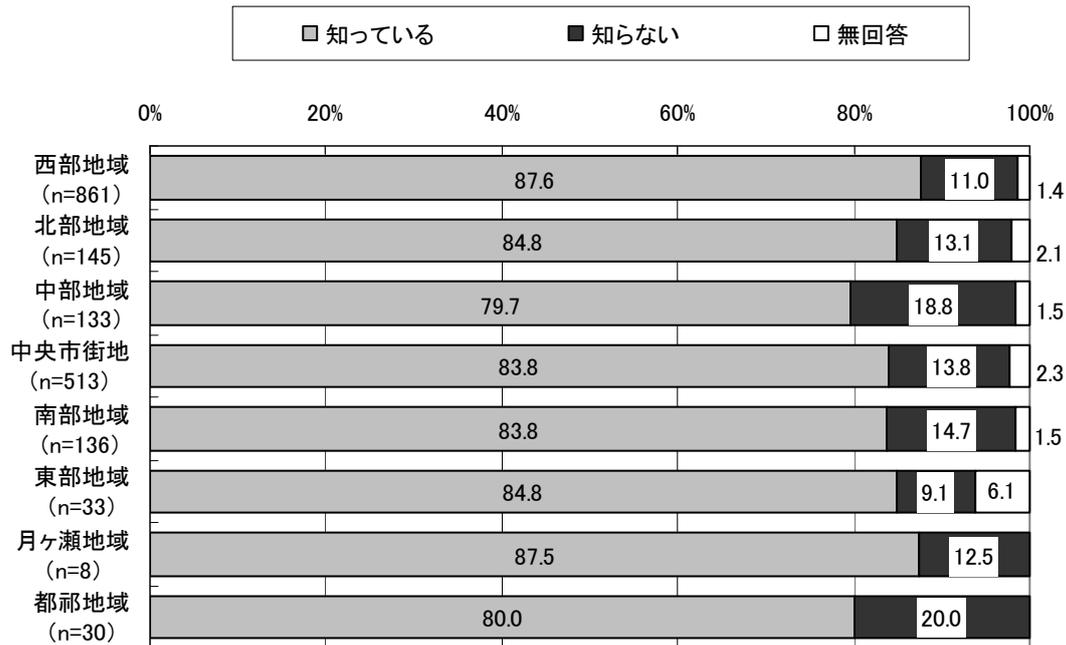
住宅用火災警報器設置が義務付けられたことの認知状況をみると、「知っている」が84.9%で8割を超えている。一方、1割強の人は「知らない」と答えている。(図5-2)

図 5-2-1 (年齢別 住宅用火災警報器の義務付けについて)



年齢別にみると、20~29歳は認知度がやや低く、「知らない」が2割を超えている。(図5-2-1)

図 5-2-2 (地域別 住宅用火災警報器の義務付けについて)

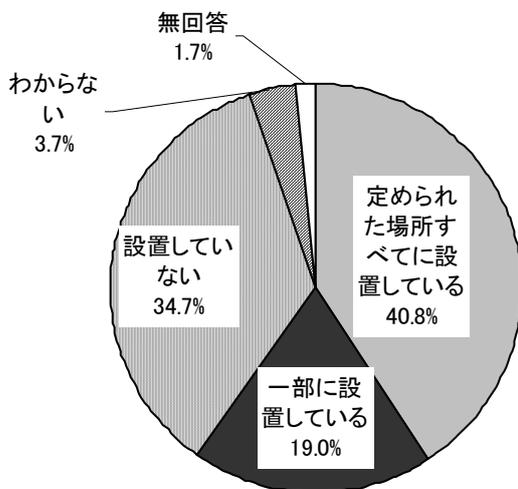


地域別にみると、西部地域は「知っている」が 87.6%で認知度が最も高い。都祁地域と中部地域は「知らない」が高く、認知度は他の地域よりやや低くなっている。(図 5-2-2)

5-3 住宅用火災警報器の設置状況

問 16 住宅用火災警報器の設置場所は、原則として、住宅の各寝室および2階以上に寝室がある場合は、階段の天井部分となっています。あなたのお住まいの住宅には、住宅用火災警報器が設置されていますか。(1つ選択)

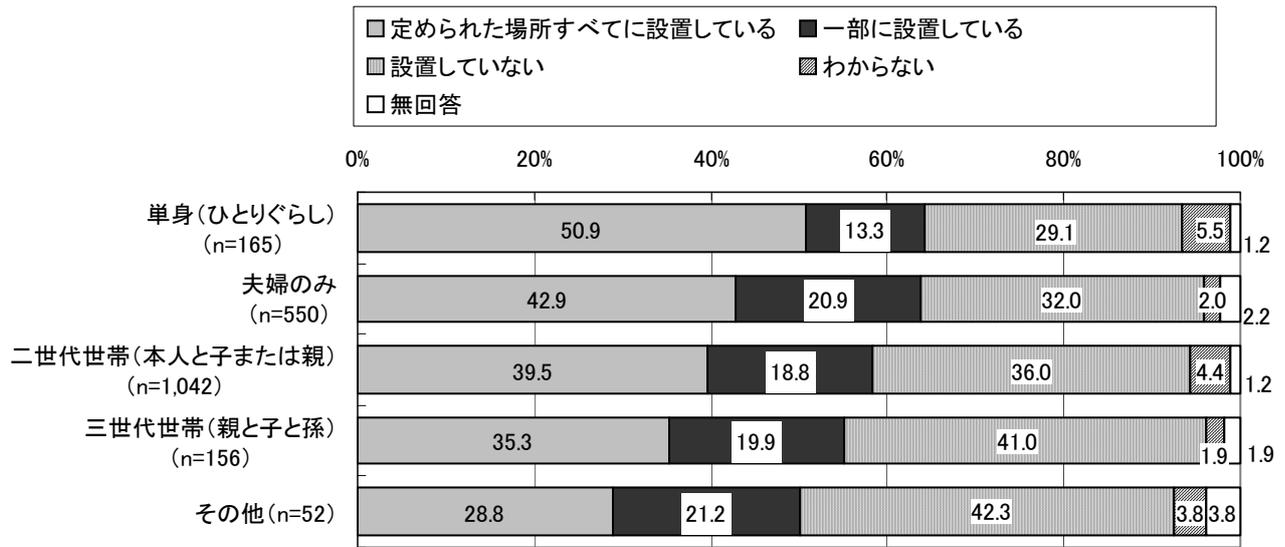
図 5-3 (住宅用火災警報器の設置状況) 【n=1,980】



住宅用火災警報器の設置状況を尋ねると、「定められた場所すべてに設置している」が 40.8%、「一部に設置している」が 19.0%で、一部設置と合わせても約6割という状況である。

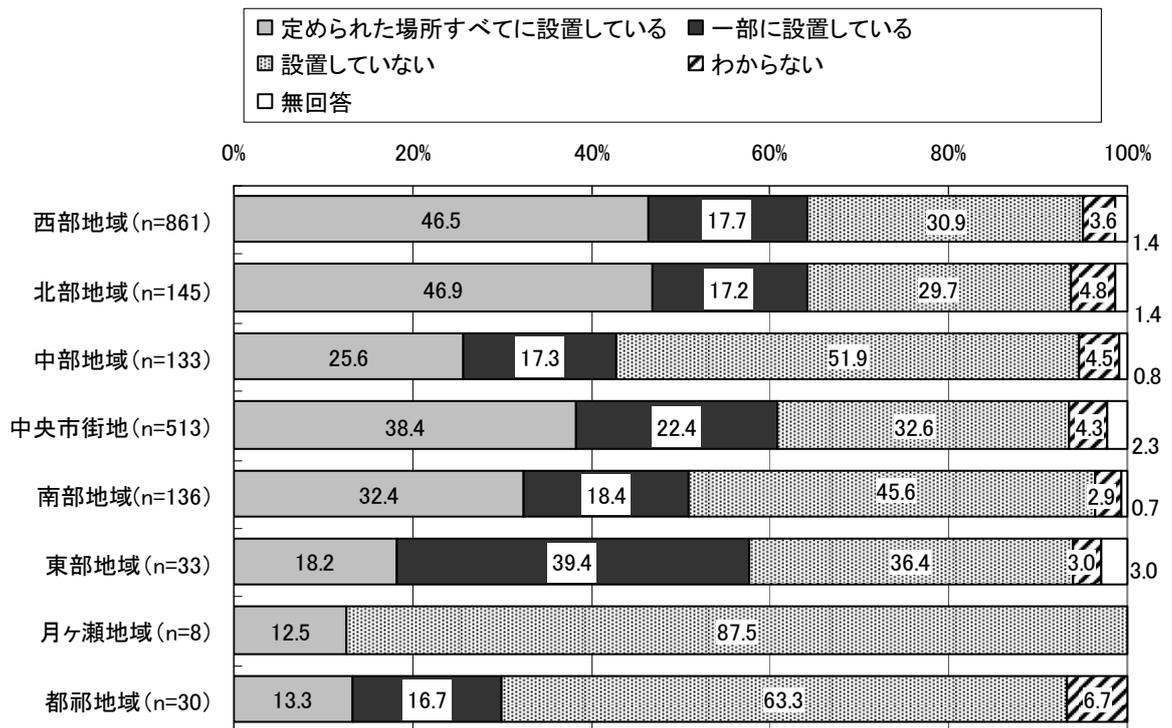
一方、「設置していない」は 34.7%で、3人に1人の家庭では設置されていない。(図 5-3)

図 5-3-1 (家族構成別 住宅用火災警報器の設置状況)



家族構成別にみると、単身世帯では「定められた場所すべてに設置している」が高く 5割を占めている。三世帯世帯では「設置していない」(41.0%) が他の世帯よりも高い。(図 5-3-1)

図 5-3-2 (地域別 住宅用火災警報器の設置状況)

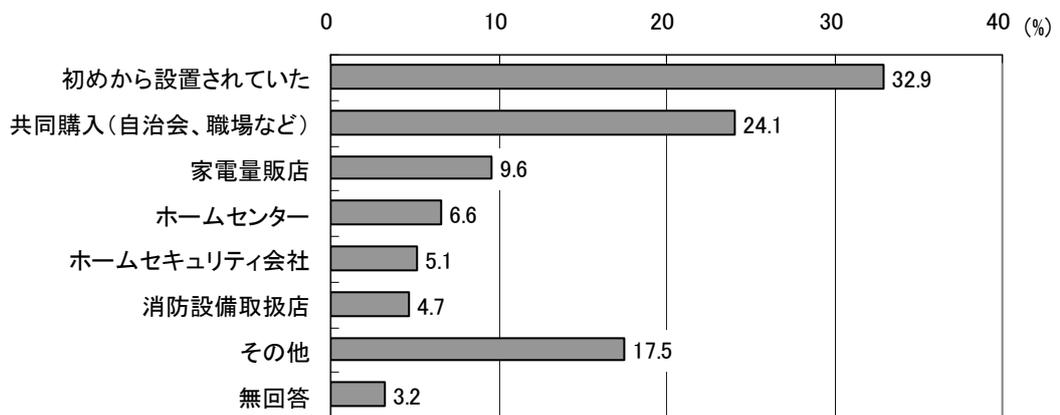


地域別では、北部地域と西部地域では「定められた場所すべてに設置している」がやや高い。月ヶ瀬地域、都祁地域、中部地域では「定められた場所すべてに設置している」と「一部に設置している」を合わせた割合が低く、「設置していない」が5割を超えている。(図 5-3-2)

5-4 住宅用火災警報器の購入場所

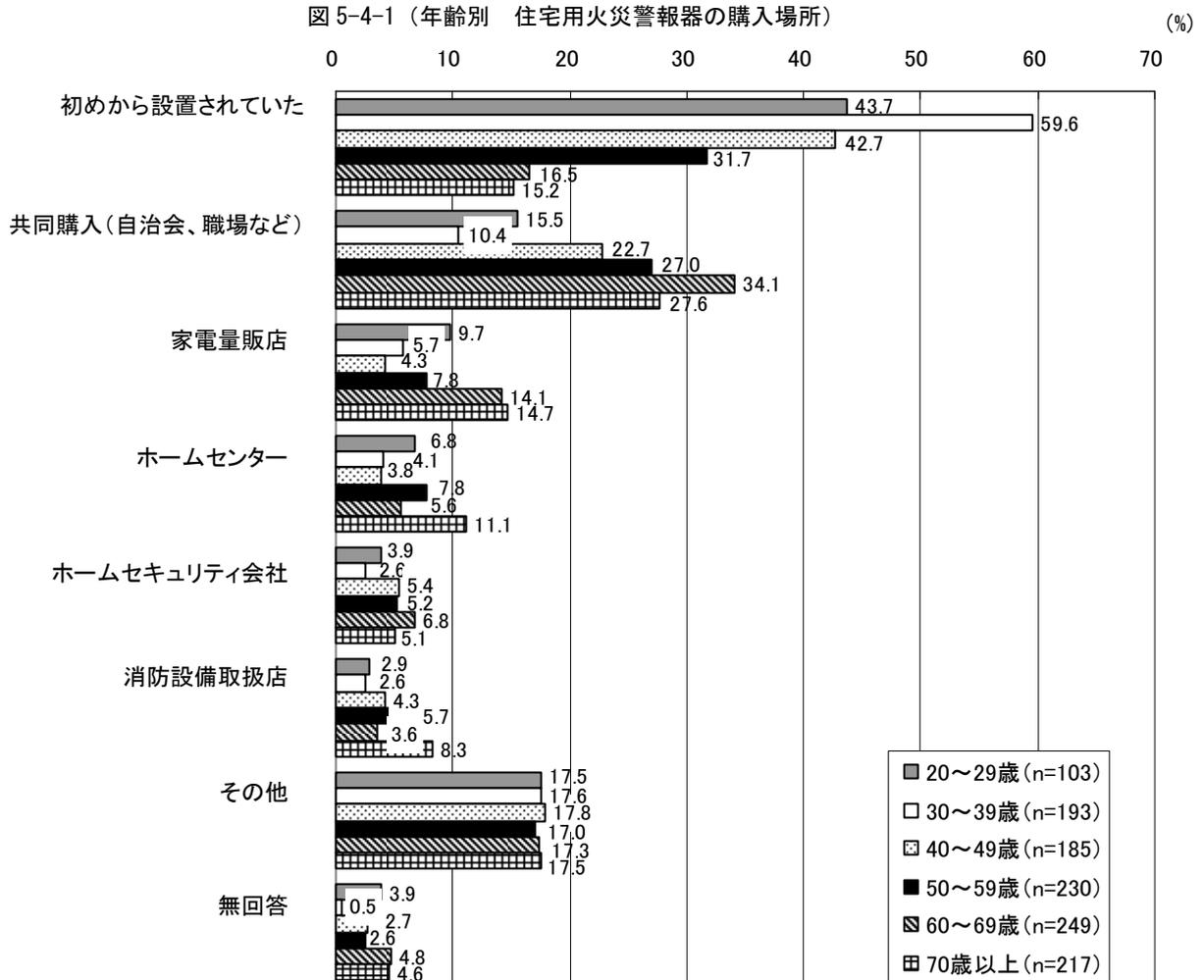
問16-1 問16で「1. 定められた場所すべてに設置している」「2. 一部に設置している」と答えられた方におたずねします。どこで購入されましたか。
(あてはまるものすべてに○)

図5-4 (住宅用火災警報器の購入場所)【n=1,185】



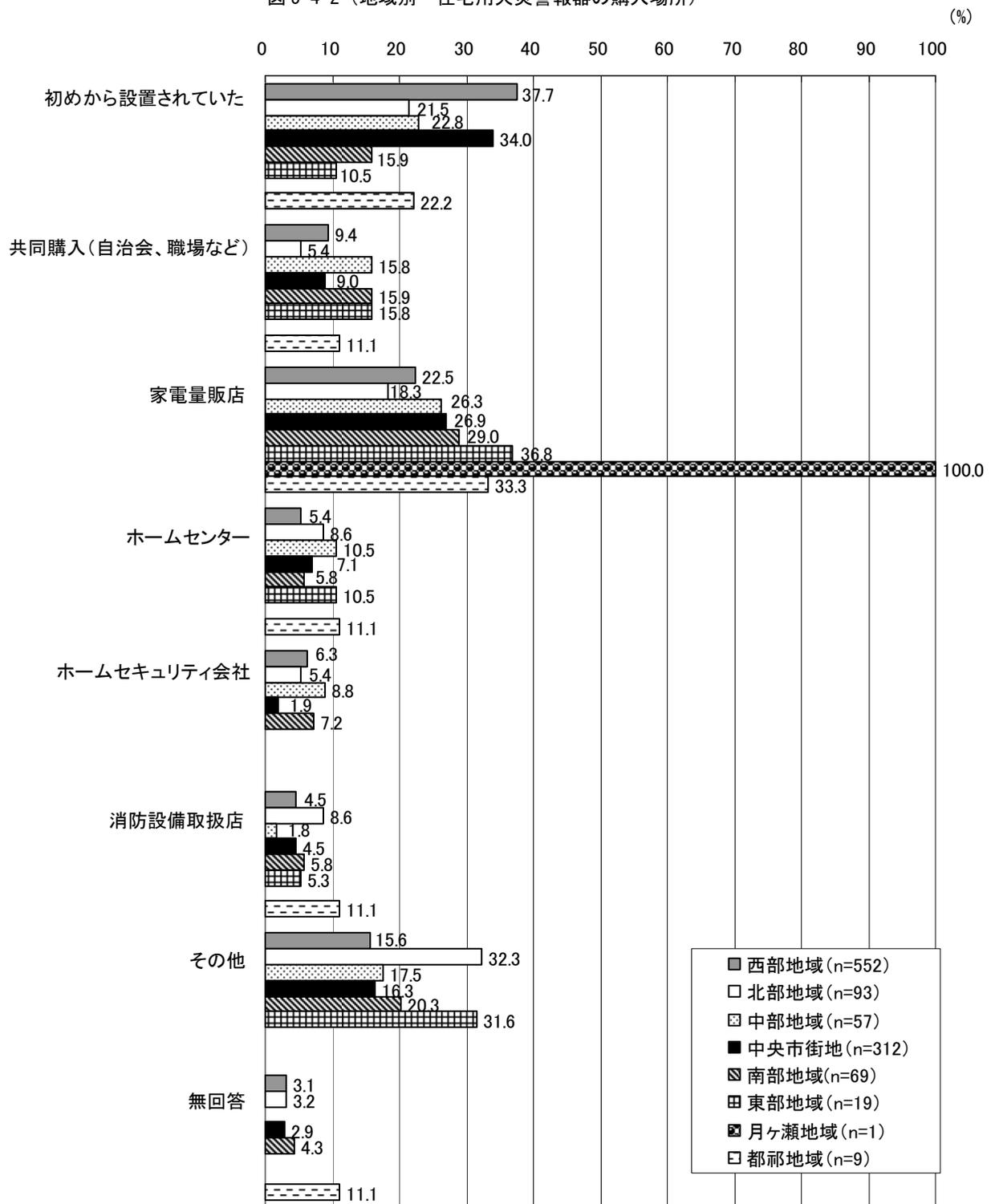
問16で「1. 定められた場所すべてに設置している」「2. 一部に設置している」と答えた方に購入場所を尋ねたところ、「初めから設置されていた」が32.9%で最も高く、次いで、「共同購入(自治会、職場など)」が24.1%となっている。(図5-4)

図5-4-1 (年齢別 住宅用火災警報器の購入場所)



年齢別にみると、30～39歳で「初めから設置されていた」(59.6%)が最も高い。60～69歳では「共同購入(自治会、職場など)」(34.1%)が他の年代より高い。(図5-4-1)

図5-4-2 (地域別 住宅用火災警報器の購入場所)

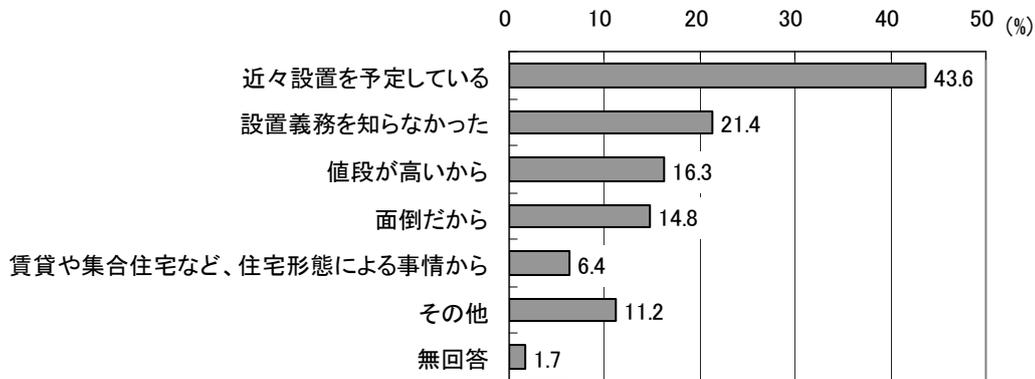


地域別にみると、西部地域と中央市街地で「初めから設置されていた」がやや高くなっている。東部地域では「共同購入(自治会、職場など)」(36.8%)が他の地域より高くなっている。(図5-4-2)

5-5 住宅用火災警報器を設置していない理由

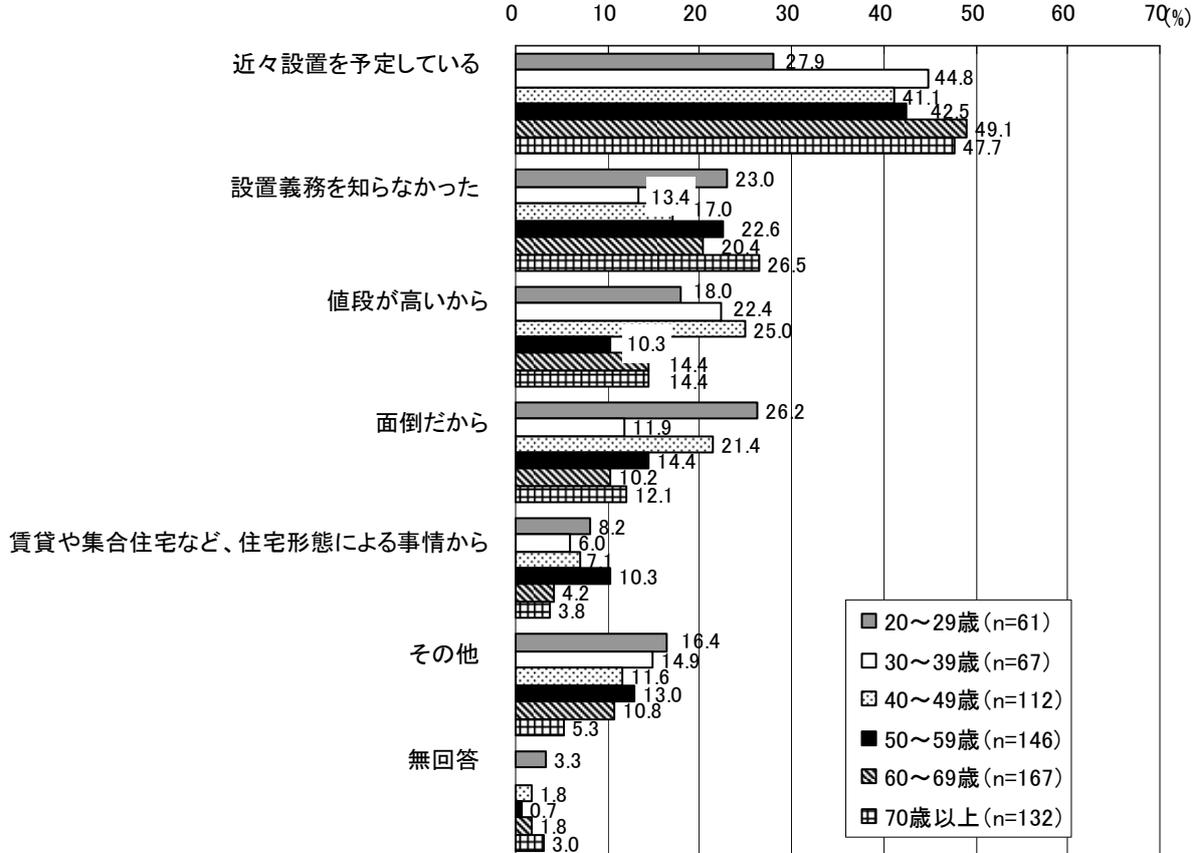
問 16-2 問 16で「3. 設置していない」と答えられた方におたずねします。設置していないのは、どのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

図 5-5 (住宅用火災警報器を設置していない理由) 【n=688】



問 16で「3. 設置していない」と答えた方にその理由をたずねると、43.6%の人は「近々設置を予定している」とのことであった。次いで、「設置義務を知らなかった」が 21.4%、「値段が高いから」が 16.3%、「面倒だから」が 14.8%となっている。(図 5-5)

図 5-5-1 (年齢別 住宅用火災警報器を設置していない理由)



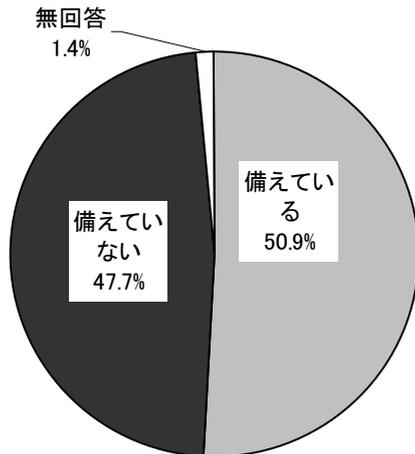
年齢別にみると、すべての年代で「近々設置を予定している」が最も高いが、20~29歳は 27.9%にとどまっている。20~29歳と 40~49歳では「面倒だから」が高く 2割を超えている。(図 5-5-1)

6. 火災予防対策について

6-1 家庭での消火器の設置状況

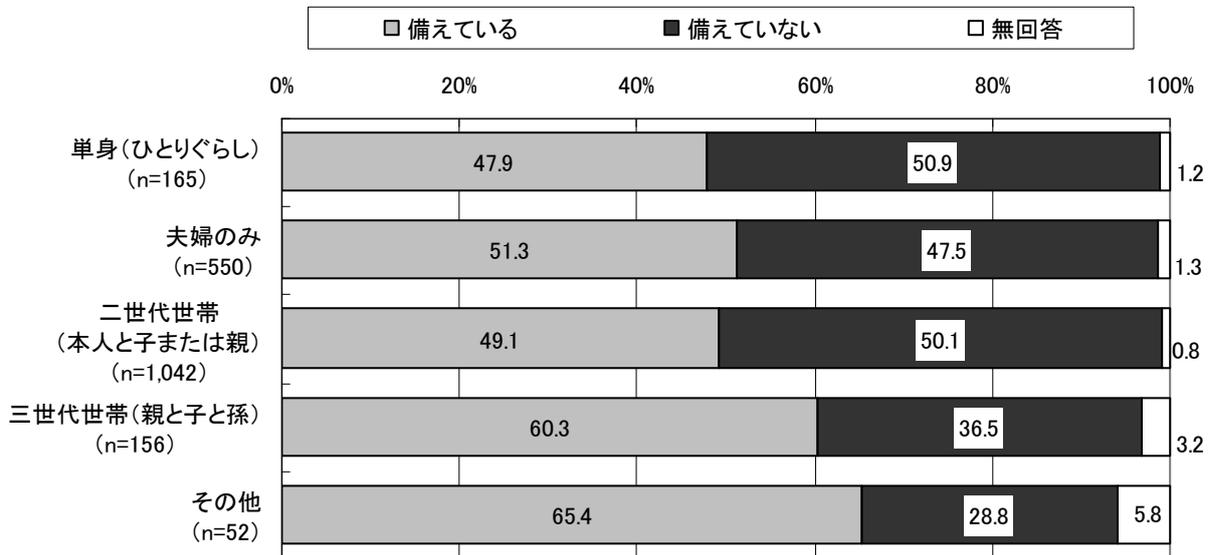
問17 あなたのご家庭に消火器は備えられていますか。(1つ選択)

図6-1 (家庭での消火器の設置状況)【n=1,980】



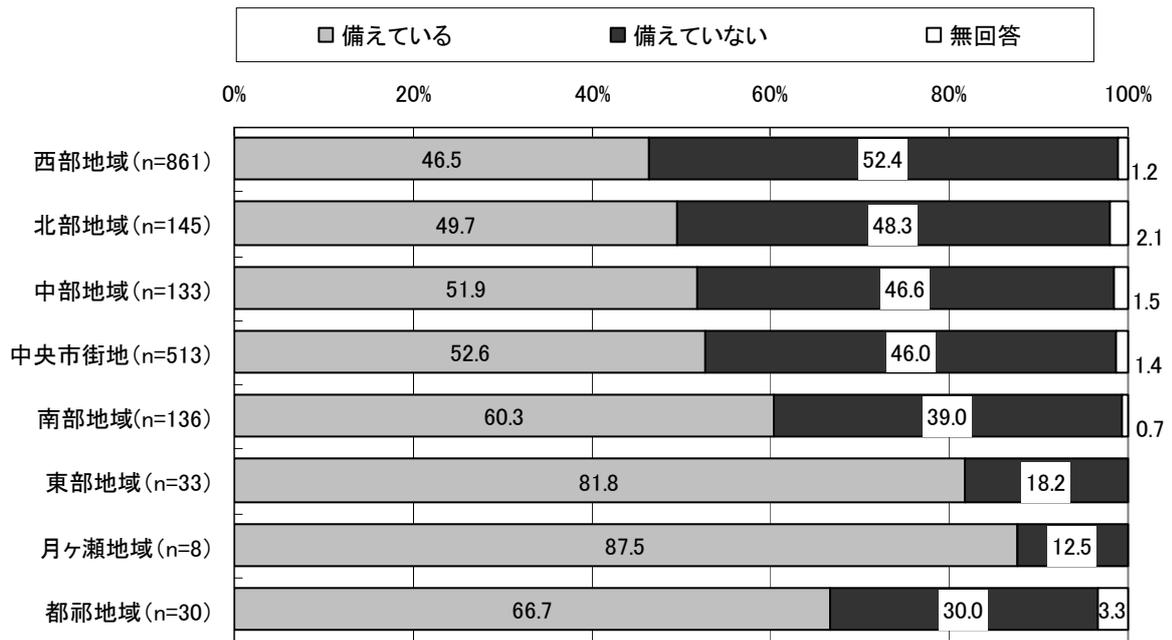
家庭での消火器の設置状況を見ると、「備えている」が50.9%、「備えていない」が47.7%で、設置している家庭のほうがやや高いものの、設置率は5割にとどまっている。(図6-1)

図6-1-1 (家族構成別 家庭での消火器の設置状況)



家族構成別にみると、三世帯世帯と夫婦のみ世帯では「備えている」が「備えていない」より高く、三世帯世帯の設置率は約6割となっている。(図6-1-1)

図 6-1-2 (地域別 家庭での消火器の設置状況)

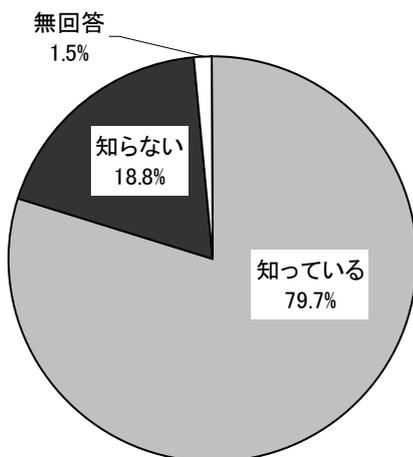


地域別にみると、西部地域以外の地域では「備えている」が「備えていない」を上回っている。東部地域、月ヶ瀬地域では設置率が8割を超えている。(図 6-1-2)

6-2 消火器の使用方法の認知度

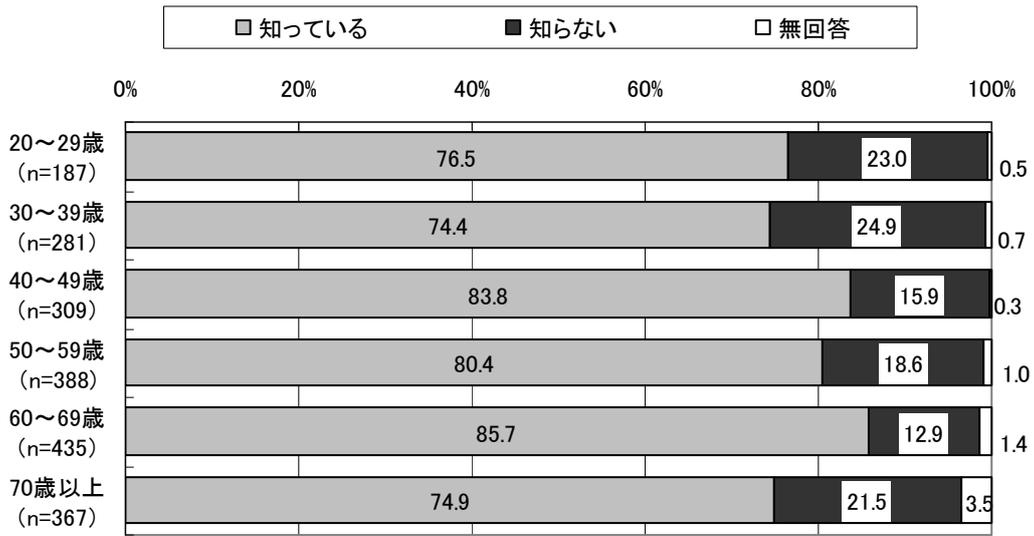
問 18 あなたは、消火器の使用方法を知っていますか。(1つ選択)

図 6-2 (消火器の使用方法の認知度) 【n=1,980】



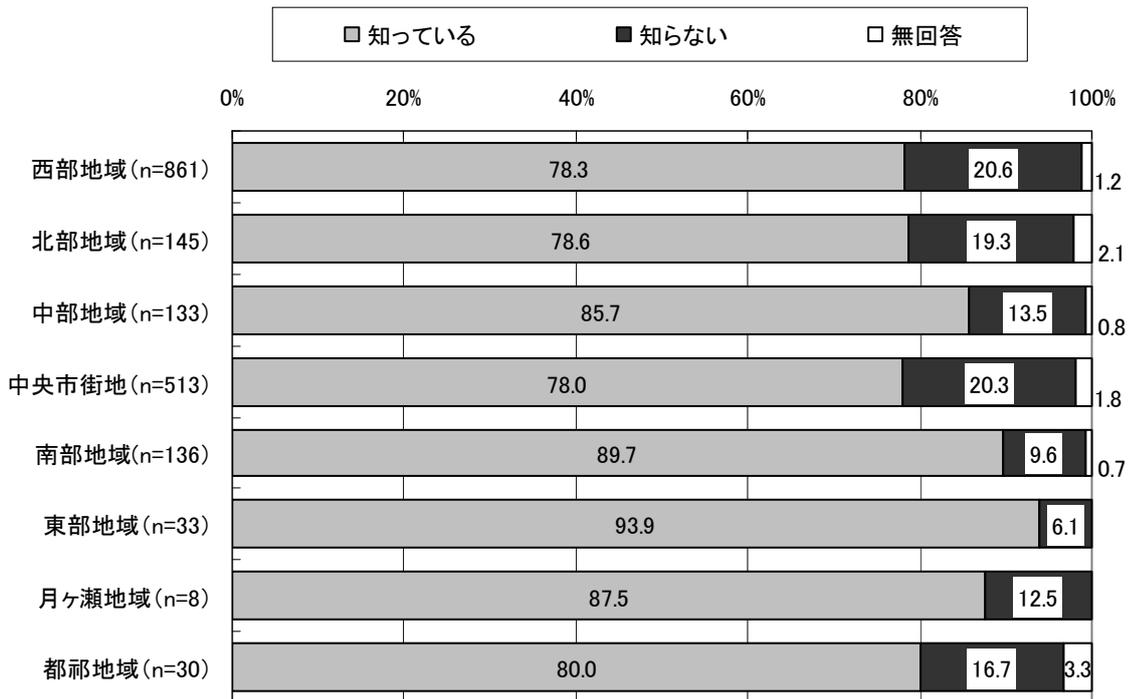
消火器の使用方法の認知度をみると、「知っている」が79.7%、「知らない」が18.8%となっている。約8割の人は使用方法を知っているが、2割弱の人は使用方法を知らない状況がみられる。(図 6-2)

図 6-2-1 (年齢別 消火器の使用方法の認知度)



年齢別にみると、60～69歳で「知っている」が最も高く85.7%である。30歳代以下は「知らない」が他の年代よりやや高い。(図 6-2-1)

図 6-2-2 (地域別 消火器の使用方法の認知度)

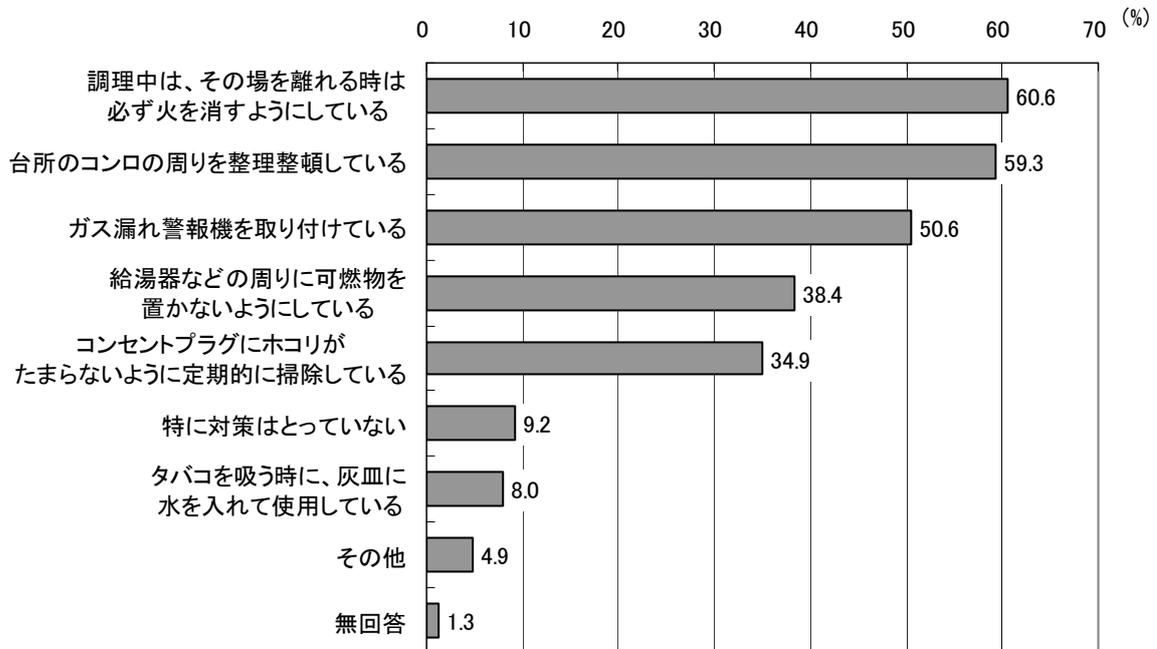


地域別にみると、東部地域では「知っている」が9割を超えている。西部地域と中央市街地では「知らない」が20%を超え、他の地域よりやや低くなっている。(図 6-2-2)

6-3 家庭での火災予防対策の状況

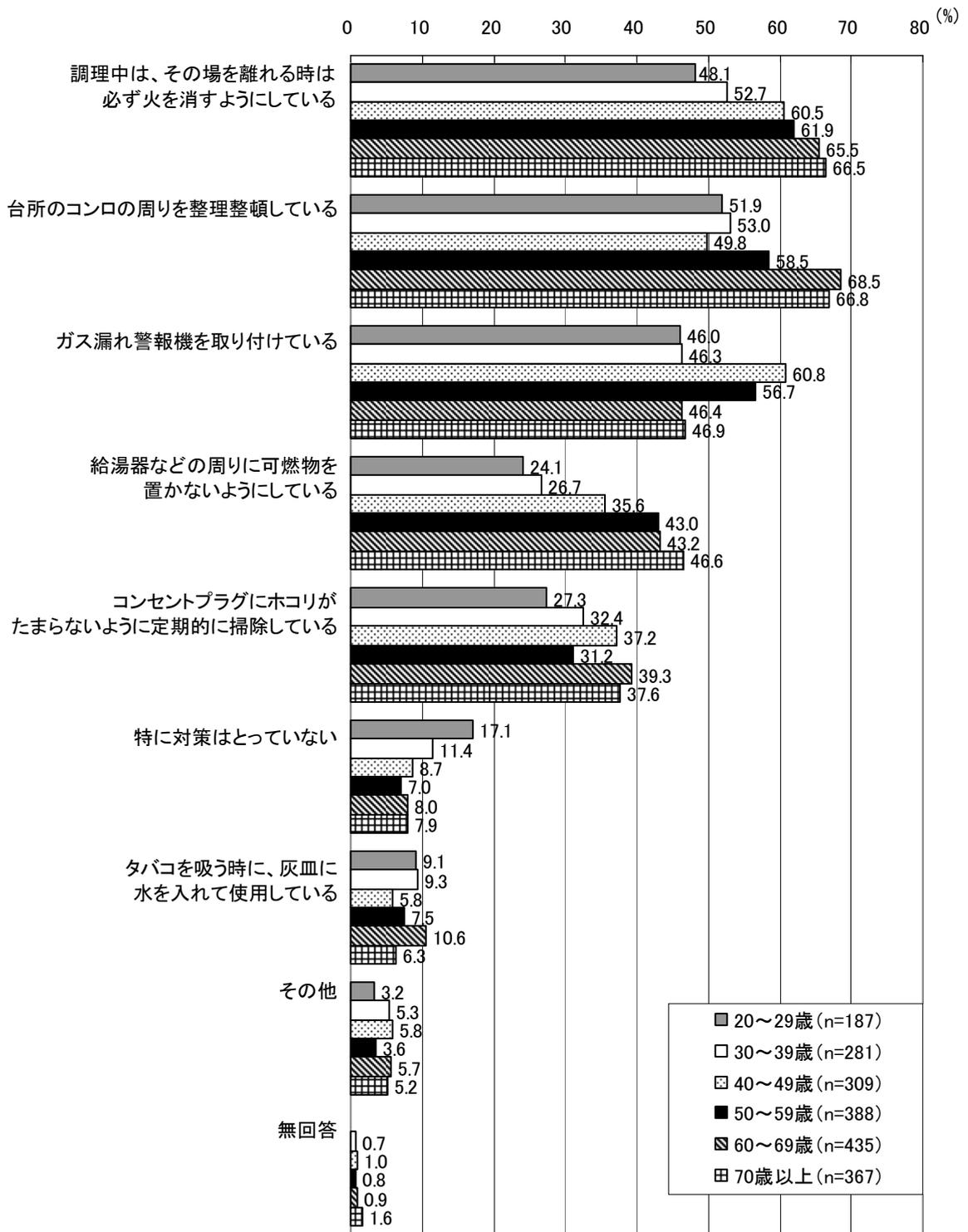
問19 あなたの家庭では、どのような火災予防対策をとっていますか。
(あてはまるものすべてに○)

図6-3 (家庭での火災予防対策の状況)【n=1,980】



家庭での火災予防対策の状況をたずねると、「調理中は、その場を離れる時は必ず火を消すようにしている」(60.6%)と「台所のコンロの周りを整理整頓している」(59.3%)がほぼ同率で高く、約6割の回答となっている。次いで、「ガス漏れ警報機を取り付けている」が50.6%である。(図6-3)

図 6-3-1 (年齢別 家庭での火災予防対策の状況)



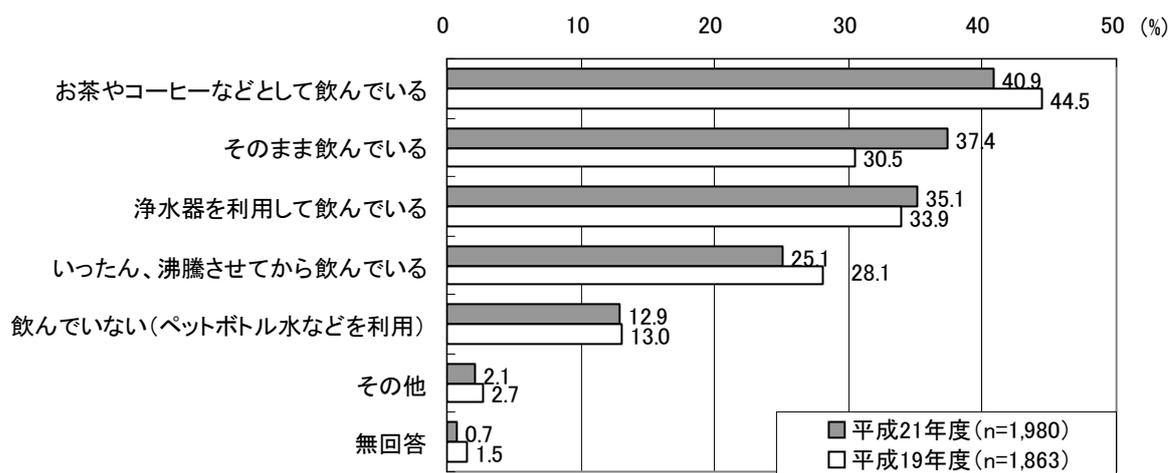
年齢別にみると、年代が高くなるにつれ「調理中は、その場を離れる時は必ず火を消すようにしている」「台所のコンロの周りを整理整頓している」「給湯器などの周りに可燃物を置かないようにしている」は高い傾向がみられる。40～49歳で「ガス漏れ警報機を取り付けている」が60.8%と高くなっている。(図 6-3-1)

7. 水道水の飲用について

7-1 水道水の飲用方法

問20 あなたは、水道水をどのようにして飲まれていますか。
(あてはまるものすべてに○)

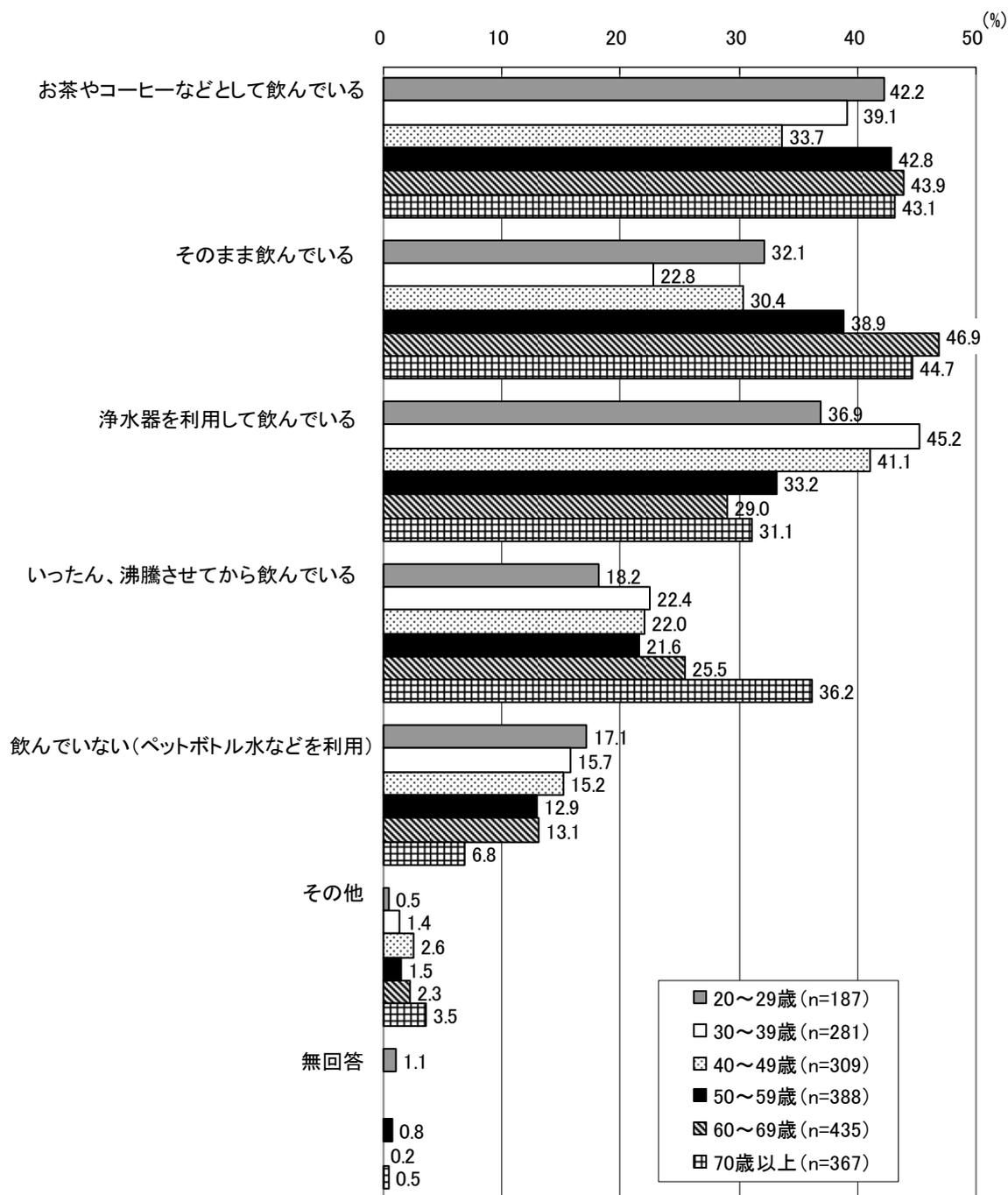
図 7-1 (水道水の飲用方法)【n=1,980】



水道水の飲用方法は、「お茶やコーヒーなどとして飲んでいる」が最も高く 40.9%、次いで、「そのまま飲んでいる」が 37.4%、「浄水器を利用して飲んでいる」が 35.1%となっている。「飲んでいない(ペットボトル水などを利用)」(12.9%)の回答が1割強みられる。

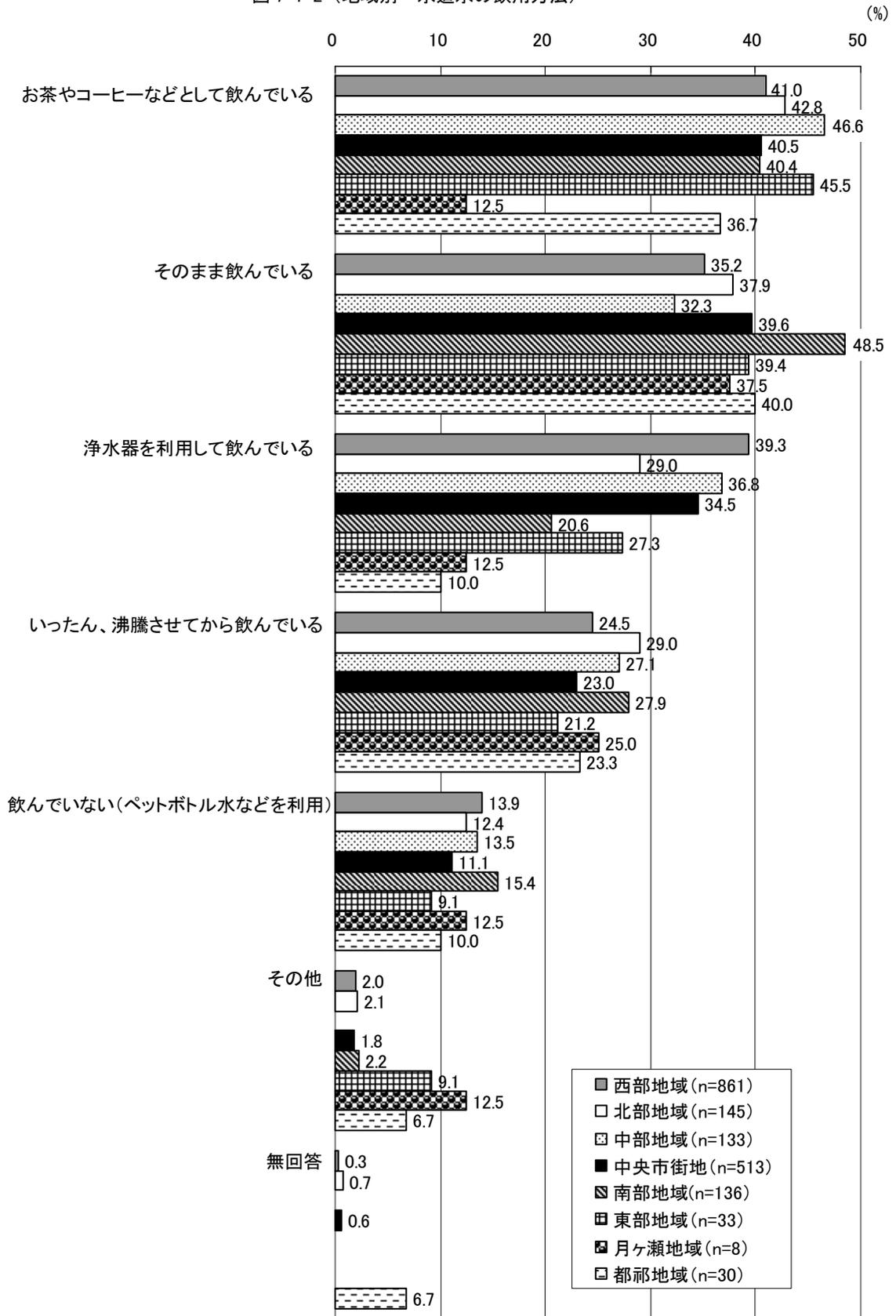
平成 19 年度の「奈良市民意識調査」と比較すると、「そのまま飲んでいる」は前回調査を 6.9 ポイント上回っている。(図 7-1)

図 7-1-1 (年齢別 水道水の飲用方法)



年齢別にみると、60歳以上では「そのまま飲んでいる」、30～39歳と40～49歳では「浄水器を利用して飲んでいる」が他の年代より高く4割を超えている。(図 7-1-1)

図 7-1-2 (地域別 水道水の飲用方法)



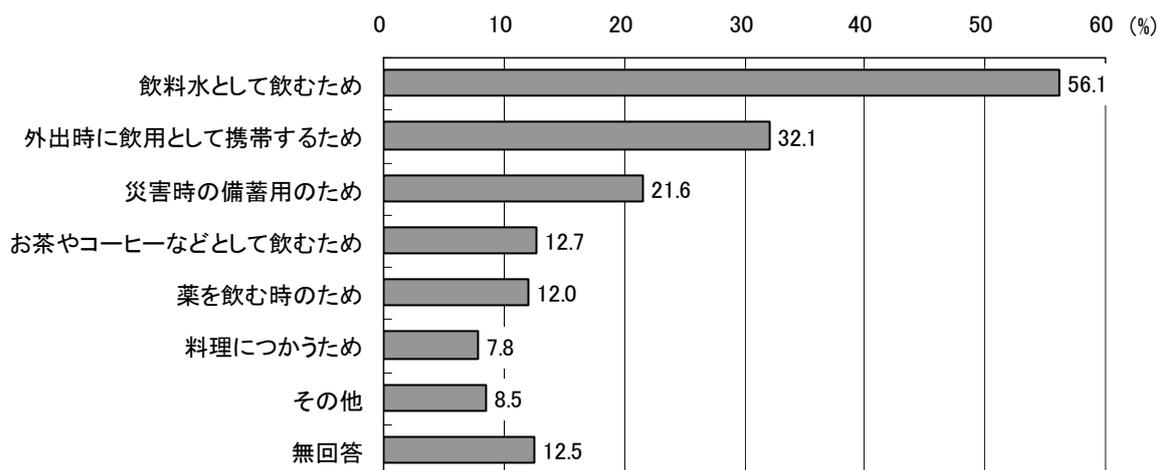
地域別にみると、南部地域では「そのまま飲んでいる」が48.5%で他の地域より高くなっている。西部地域では「浄水器を利用している」が他の地域よりやや高い。(図 7-1-2)

8. ペットボトル水の利用法等について

8-1 ミネラルウォーターの購入目的

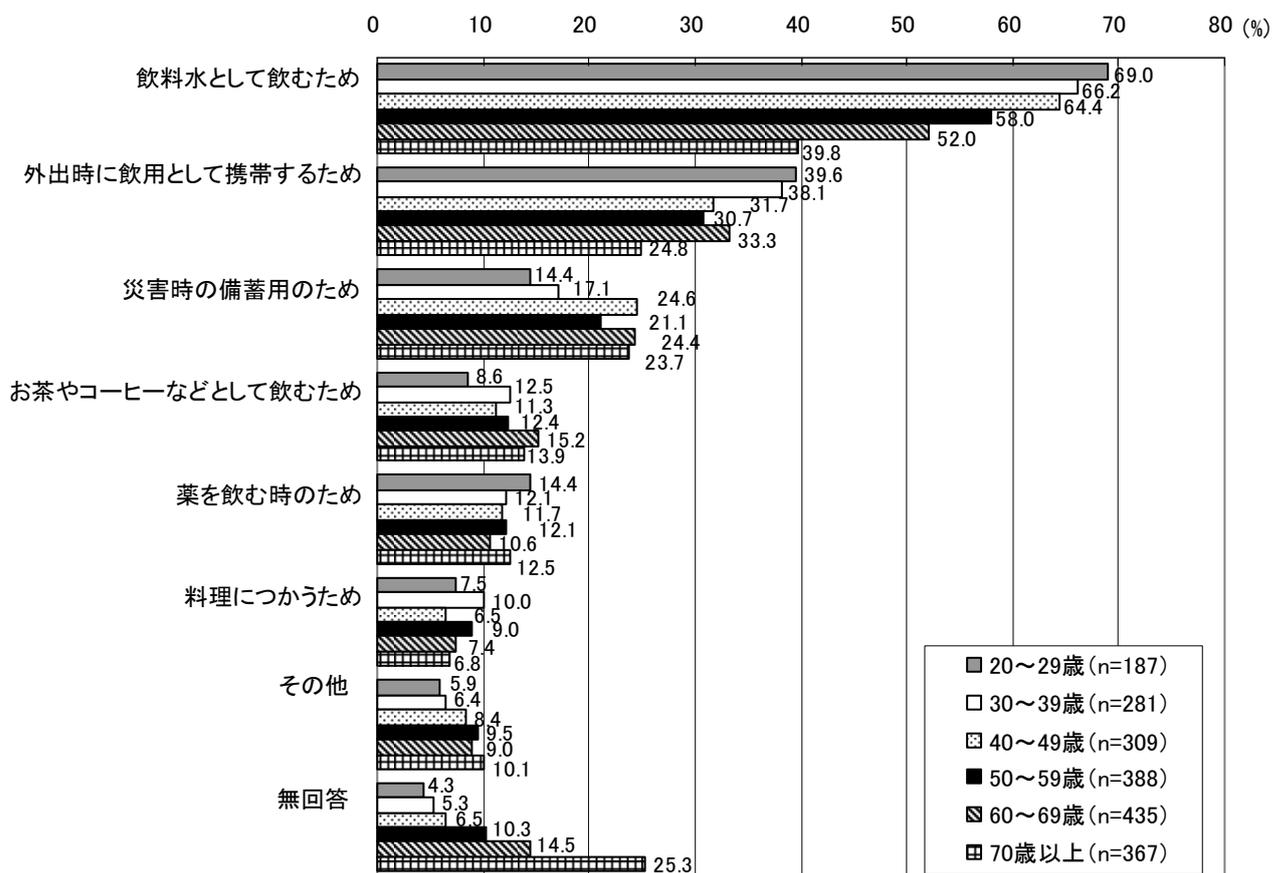
問21 ミネラルウォーター（ペットボトル水）の購入目的は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

図8-1（ミネラルウォーターの購入目的）【n=1,980】



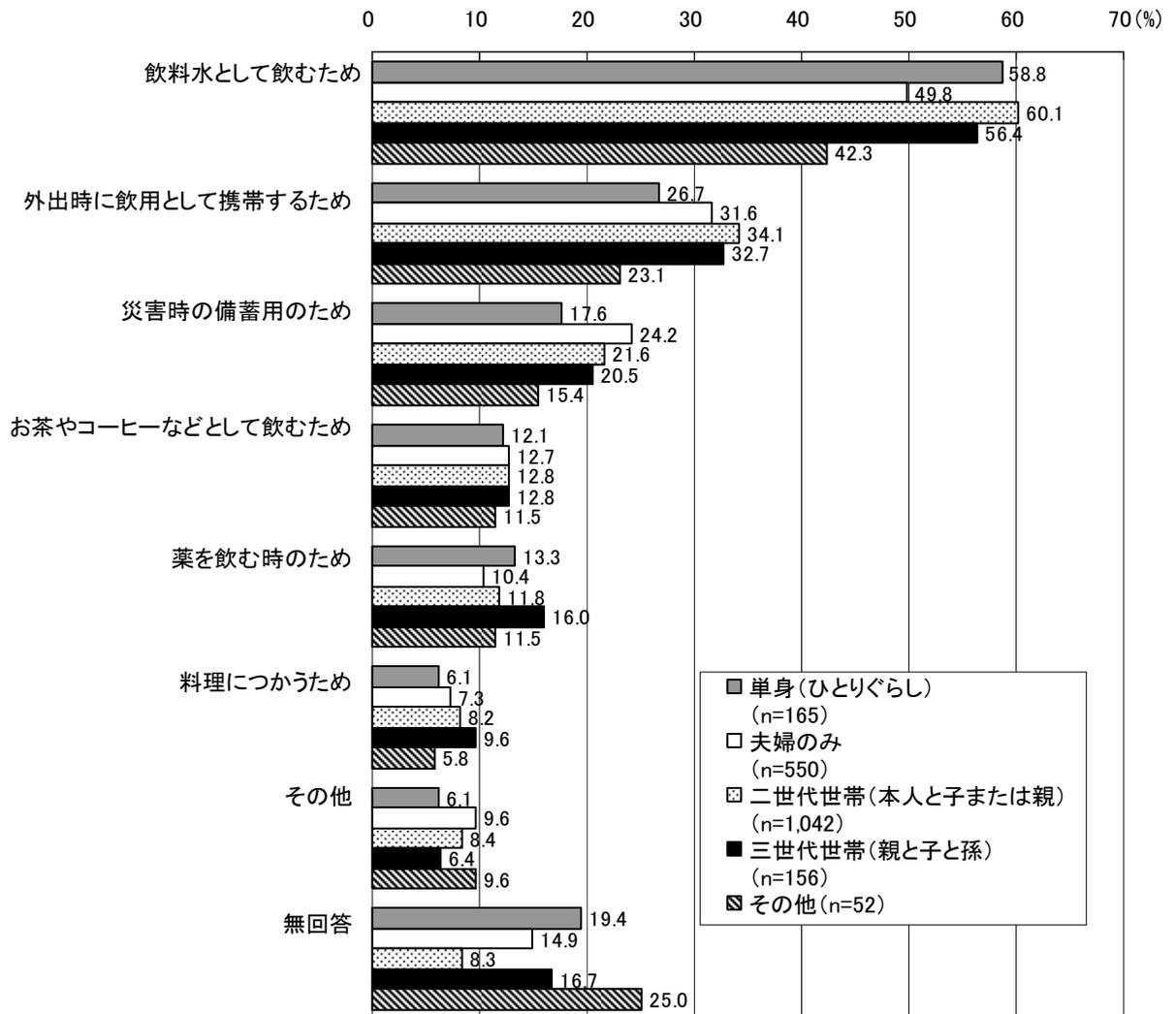
ミネラルウォーター（ペットボトル水）の購入目的をみると、「飲料水として飲むため」（56.1%）と半数以上の方が答えている。次いで、「外出時に飲用として携帯するため」が32.1%、「災害時の備蓄用のため」が21.6%となっている。（図8-1）

図8-1-1（年齢別 ミネラルウォーターの購入目的）



年齢別にみると、年代が低くなるほど「飲料水として飲むため」は高く、20～29歳では約7割にのぼり、70歳以上と比べると29.2%も高くなっている。(図8-1-1)

図8-1-2 (家族構成別 ミネラルウォーターの購入目的)

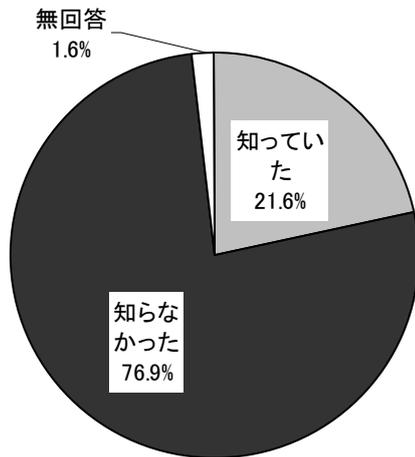


家族構成別にみると、二世帯世帯では「飲料水として飲むため」が他の年代よりやや高く60.1%となっている。(図8-1-2)

8-2 水道水の検査基準についての認知度

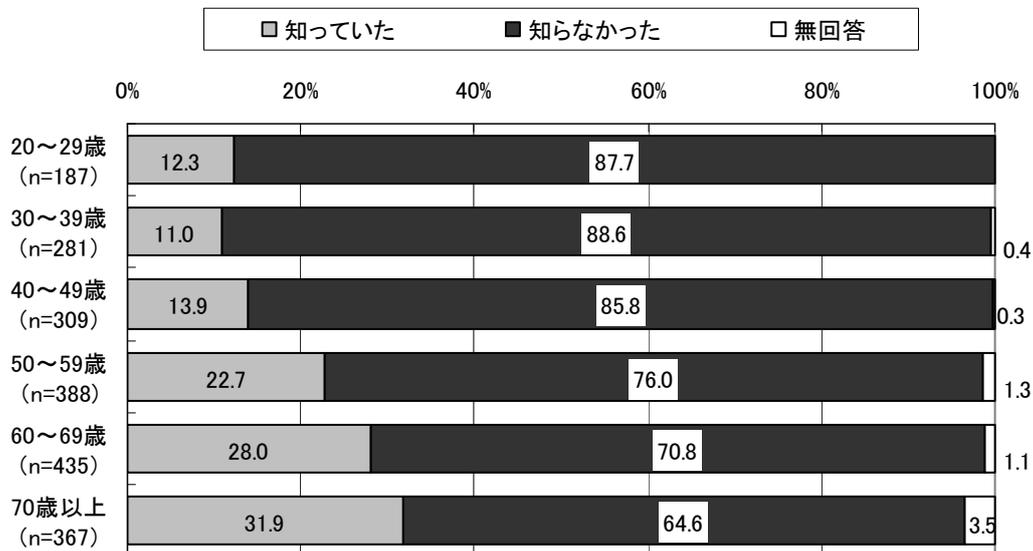
問22 水道水は、ミネラルウォーター（ペットボトル水）よりも多い検査基準（50項目）に適合して供給しています。このことをご存じでしたか。（1つ選択）

図8-2（水道水の検査基準についての認知度）【n=1,980】



水道水の検査基準についての認知度をみると、「知っていた」が21.6%、「知らなかった」が76.9%で、認知度は約2割である。（図8-2）

図8-2-1（年齢別 水道水の検査基準についての認知度）



年齢別にみると、70歳以上では「知っていた」が31.9%で認知度は最も高い。年代が低くなるにつれ、認知度は低くなる傾向である。（図8-2-1）

9. 市政への意見・要望

9-1 奈良市政について（自由回答）

問23 奈良市政について、日頃お気づきの点やお感じになっている点をお聞かせください。（自由回答）

奈良市政について、1,017人（51.4%）の方からご意見数1,479件のご意見やご要望の回答があった。分類すると次のとおりであり、「環境・まちづくり」が31.2%で最も高くなっている。

表 奈良市政について（自由回答）

大分類	中分類	回答数	構成比
市政	財政	68	4.6
	選挙	4	0.3
	議員	28	1.9
	広報・情報公開	69	4.7
	税金	59	4.0
	その他	157	10.6
	計	385	26.0
環境・まちづくり	道路・交通	151	10.2
	ごみ、清掃・美化	63	4.3
	自然・緑化	28	1.9
	景観	34	2.3
	まちづくりのイメージ	67	4.5
	公園	17	1.1
	土地	14	0.9
	上水道・下水道	19	1.3
	自治会活動・コミュニティ	12	0.8
	その他	56	3.8
	計	461	31.2
保健・医療・福祉	高齢者福祉	45	3.0
	児童福祉	46	3.1
	福祉全般	25	1.7
	医療費・健康保険料	27	1.8
	医療機関	44	3.0
	障がい者福祉	8	0.5
	保健	13	0.9
	生活福祉	21	1.4
計	229	15.5	
人権・教育・文化	生涯学習・スポーツ施設	32	2.2
	学校教育	49	3.3
	その他	20	1.4
	計	101	6.8
観光・商業・労働	観光	71	4.8
	商業	15	1.0
	労働	15	1.0
	計	101	6.8
災害・安全	防災	22	1.5
	治安の維持・向上	25	1.7
	計	47	3.2
市職員・市役所	職員	81	5.5
	窓口業務	35	2.4
	計	116	7.8
その他	アンケート	23	1.6
	その他	16	1.1
	計	39	2.6
ご意見総数		1,479	100.0%

※回答者の中には、複数の内容を記述している人もおり、各分類の計とご意見総数（回答者数）は一致しない。

奈良市民意識調査

報告書

発行 奈良市 広報広聴課

奈良市二条大路南一丁目1番1号

TEL 0742-34-1111
